

Title	小泉信三博士年譜および著作目録
Sub Title	A bibliography of the writings of late Dr. Shinzo Koizumi, together with his chronology and a chronological table of socio-cultural history
Author	白井, 厚
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1966
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.59, No.11 (1966. 11) ,p.1327(157)- 1364(194)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	小泉信三博士追悼特集
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19661101-0157">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19661101-0157</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

(注7) 「わが日常」中の「わが住居」の項、同書四七二頁。新潮社、昭和三十八年刊。

(注8) 「私と社会主義」、前掲書、九三頁。

(注9) 「私と社会主義」、前掲書、七五―七六頁。小泉先生によれば、福田博士は「終始マルクスのファン」であった。

(注10) 「私と社会主義」、前掲書、七三頁、七五頁。

(後記) (一) 故野呂栄太郎氏は、大正九年に経済学部に入學している。同氏の卒業前年の大正十四年三月に政府は、普通選挙法と抱き合せて治安維持法を通過せしめ、長い反動時代の幕を開けている。これは、震災後ますます高まる民主主義の風潮、労働階級の結社と政党の組織化および普通選挙法通過後の政治・思想運動を弾圧するためのものであった。この反動立法は同時に、以前からの右翼分子の結社化と活動を刺激した。治安維持法の最初の適用は、大正十五年一月十五日の京都大学学連事件であった。塾員の大塚嘉次氏の談によれば、野呂氏はこの事件後に卒業論文を提出した。この事件は東京の諸大学生にも波及したが、野呂氏は三辺金蔵先生と小泉信三先生との断固たる配慮によって、無事に四月に行われた卒業式を終えた。だが卒業式終了後のその日に、右の学連事件で検挙された、とのことである。思うに小泉先生は、合理的考察を旨とする経済学者であると同時に、合理的考え方の相違を乗り越えるヒューマニストの風格をもつ思想家であった。

(二) 小泉先生のマルクイズム批判を評して大内兵衛先生は「……この批判は……上等の品格ある批判だと思ふ」(文芸春秋、昭和四十一年七月号、二五八頁)とされ、また向坂逸郎氏は「……小泉さんのマルクスの理論に対する批評の多くは、批判として最高のものである……小泉さんのマルクス批判は、私の前における学問の道を開くわしくした。私は、小泉さんのマルクス批判の準備がよかつただけに、私は私なりに、準備をよくすることをとめたのであった。私は今日でも若い人々に、小泉さんのマルクス批判を読んで、これに完全に答えられるようになれ、とすすめる……」(文芸春秋、昭和四十一年一月号、二八七―八頁)と記されている。このように、上等または最高の批判とか、準備のよい批判とかいわれる所以は、小泉先生がマルクスの諸著作を熱心に研究し、マルクス価値論批判のためには、さらにロード、ベルタスやリカードその他を研究し、唯物史観批判のためには、さらにクローノー・フィッシャーの著書を手引きとしてヘーゲル哲学を研究し、また新カント派に属する人々の多くの著作を読破して、自己の見解を形成された事実によるものである。本稿では先生の唯物史観批判にはふれなかつた。だが結局において、先生の批判の提起する主要な論点は、(1)形式論理学と弁証法論理学の適用性の問題、(2)弁証法的歴史の必然論における因果性と目的性の一致の問題であると思われる。先生は、(1)については、弁証法論理学を重視しないで形式論理学的思考法則に立脚し、(2)については、機械的必然論の見地から論評し、弁証法的な因果性と目的性の一致に反対して、カントの実践理性的なものの肯定に接近されている。

### 小泉信三博士年譜および著作目録

年	譜	三田学会雑誌掲載論文・著作目録	社会経済年表
1888年(明治21年)	東京市芝区三田に生まれる。父信吉は旧紀州徳川藩士、江戸に出て福沢諭吉の塾に学び、開成学校(後の東京帝国大学)教授、横浜正金銀行副頭取、大蔵省奏任御用掛を歴任、明治二〇年度応義塾長となる。		秘密院を置く、議長伊藤博文○黒田内閣成立 ○森鷗外ドイツ留学より帰朝。 (仏) フランジエ事件。 中江兆民「国会論」、植木枝盛「国会組織国民大会論」、吉本襄「高島炭坑坑夫虐殺の実況」、福沢諭吉「日本男子論」 <small>「実業論」</small>
1889年(明治22年)			大日本帝国憲法等公布○森有礼暗殺○東海道本線開通○地租代米納廃止。 (英) ロンドン港ドック労働者スト、大勝利。 ○パリで第二インター結成。 大井憲太郎「自由略論」、伊藤博文「帝国憲法義解」。
1890年(明治23年)	父信吉慶応義塾長を辞し間もなく日本銀行に入る。牛込筑土八幡に移転。		第一回衆議院総選挙○帝国議会開院○立憲自由党・国民自由党結成○教育勅語発布。 ○世界恐慌。 (独) 社会主義労働党総選挙に躍進。 ○ベルリンで国際労働会議開催。 (仏) 北フランスにゼネスト。 (露) ナロードニキ運動が広がる。 (英) マーシャル「経済原論」。
(明治)24年	父が日本銀行から派遣されて横浜正金銀行支配人となり、横		大津事件○第一次松方内閣成立。 (独) 社会民主党大会「エルフルト綱領」を採択。

小泉信三博士年譜および著作目録

1891年	1894年 (明治27年)	1895年 (明治28年)	1901年 (明治34年)	1902年 (明治35年)	1905年 (明治38年)	明治40年
浜松木町に移転。	横浜学校入学、父信吉死去。	芝三田四国町に移転、その後三田山上の福沢邸内の一棟に住む。三田台町の御田小学校に転校。一二月に三田四丁目に移転。	福沢諭吉死去。	御田小学校より慶応義塾普通部二年へ編入。この頃よりテニスを習い始める。	慶応義塾大学予科に進む。	大学部政治科へ進み、田中萃一郎、林毅陸、福田徳三、堀江
(伊) 社会党結成、サンジカリスト活躍。 (米) エジソン活動写真機を発明。	日清戦争○朝鮮東学党の乱起る○仏人ボアソナード帰国。 ○伊、仏でアナキスト取締法制定。	下関条約○三国干渉○台湾に独立運動起り軍隊によって鎮圧。 (仏) CGT成立。 (独) エンゲルス死。 ○伊エ戦争。 (独) レントゲンX線を発見。	第一次桂内閣○田中正造足尾銅毒事件を直訴○日本社会民主党結成○孫文亡命。 幸徳秋水「廿世紀の怪物帝國主義、中江兆民「一年有半」統一「一年有半」、安部磯雄「社会民主党宣言」。	日英同盟成立○教科書疑獄事件。 (露) シベリア鉄道完成。 (仏) フランス社会党(PSF)結成。 (独) ソンバルト「近代資本主義」。 ○ポーランド戦争終る。	日露戦争終る○講和反対運動暴動化。 (露) 第一次ロシア革命。 (米) IWW結成。 (モロッコ) 第一次モロッコ事件。	足尾銅山大ストライキ○日本平民党、日本社会党結成即日禁止。

1907年	1909年 (明治42年)	1910年 (明治43年)	1911年 (明治44年)	1912年 (明治45年・大正元年)
片一などの教えをうける。		慶応義塾大学部政治科卒業、その教員に採用される。水上滝太郎、沢木四万吉らと交わる。「三田文学」創刊。		塾より経済学研究のため海外留学を命ぜられ、九月出発、上海、香港、シンガポールを経て、一月ロンドン着。
○三国協商。 ○第二インター総会世界戦争反対宣言可決。 ○各国に金融恐慌。	「社会価値の概念」(本年二月発行 Quarterly Journal of Economics pp. 213-232) モンシム・ペーター氏の所説三田読書会報告(雑録・附福田徳三附言) 第二巻第四号	「實際経済政策に対する経済学の意義」(カール、チール教授が昨年二月フライブルグ大学に於て試みたる就任講演の大意 Conrad; Jahrbücher für Natök u. Statistik 1909) (雑録・附福田徳三附記) 第三巻第三号 「アダム、スミス国富論解題略」(雑録・福田徳三校) 第四巻第一号 「イナマ教授の日本墨西哥比較論」(雑録) 第四巻第三号	「ヘルマン、ハインリッヒ、ゴッセンと其学説、生誕二百年記念の爲めに」 第五巻第一号 「アダム、スミス略伝並びに国富論諸版本に就いて」 第五巻第三号	「法学博士 経済学教科書」(批評と紹介) 第六巻第一号 「主観的価値論沿革の一節」(雑録) 第六巻第二号 「堀江教授著 中央銀行と金融市場」(批評と紹介) 第六巻第二号
伊藤博文ハルビンで暗殺される○新聞紙法公布。 (英) アイルランド土地法通過。 永井荷風「ふらんす物語」、幸徳秋水「自由思想」創刊。 大逆事件○韓国併合○工場法案発表。 (英) 南アフリカ連邦を併合。 「白樺」創刊、「三田文学」創刊。	第二次西園寺内閣○片山潜の社会党結成、禁止 ○工場法公布○平塚雷鳥ら青鞥社結成。 (中) 辛亥革命、孫文臨時大統領となる。 幸徳秋水「基督救済論」、西田幾多郎「善の研究」。	日本労働総同盟友愛会創立○第三次桂内閣○吳海軍工廠スト○京大沢柳事件。 (中) 中華民国成立、第二革命。 (露) フラウダ創刊。 ○第二インター・パレル会議、戦争反対決議。 (米) ウィルソン大統領となる。 ○第一次バルカン戦争起る。		

小泉信三博士年譜および著作目録

1915年 (大正4年)	1914年 (大正3年)	1913年 (大正2年)
ケンブリッジ春の学期を終えて、ロンドンへ、沢木、水上と同宿、ブリティッシュ・ミュージアムで読書、近くにいた島崎藤村も加わって四人でよく雑談する。一〇月ロンドンを去り、スイス、イタリアを旅行、のち戦時のパリへ行き、沢木、水上と同宿、ソルボンヌで聴講、シャール・ジード、	第一次大戦起り、ドイツを退去して再びイギリスへ。しばらくケンブリッジ大学に学び、ビッグー、ケインズの講義を聴く。	ロンドン経済学校に学ぶ。一月ドイツに移ってベルリン大学に入学し、シュモラー、ワグナー、ヘルクナー、オツペンハイマーの講義を聴くとともに、高等商業学校においてゾンバルトの講義を受ける。九月 大学予修科設置。
◇訳書 ロース・ディッキンソン著「戦争是非」(三辺金蔵と共訳) 慶応義塾出版局	◇訳書 ジェンズ著「経済学純理」(福田徳三、坂西由蔵編纂、内外経済学名著第一冊) 同文館	◇訳書 全国新聞記者東京で護憲大会○第一次山本内閣○台湾独立運動弾圧○京大沢柳事件。 ○第二次バルカン戦争。 (独) ローザ・ルクセンブルク「資本蓄積論」。
対華二カ条の要求○総選挙、大浦内相の大干渉で与党勝利。 ○戦争反対の交戦国社会主義者、ソインメルワルトで国際社会主義委員会を組織。 (独) アインシュタイン相対性理論を完成。 クロボトキン・大杉訳「相互扶助論」、トルストイ・相馬御風訳「戦争と平和」、近代思想」再刊。	シームンス事件○護憲運動起る○第二次大隈内閣○対独宣戦、山東半島上陸、青島陥。 ○世界大戦。 ○各国社会党戦争支持に転向し第二インター崩壊。 (独) ショレス暗殺される。 (英) パナマ運河開通。 (英) 労働組合、産業上の休戦を協定。	

1917年 (大正6年)	1916年 (大正5年)	
三月 留学生派遣の復活(第一次、増井幸雄、八年以後毎年。 四月 医学科予科授業開始。 五月 三田新聞発刊、規定上初めて教授会の称呼。	二月パリを出発、ロンドン、ニューヨークを経て三月帰朝。塾大学部教授となり、経済原論、経済学史、社会問題担当。阿部泰蔵の三女とみ(水上瀧太郎の妹)と結婚、鎌倉小町に新居をもつ。	リストなどの教授がいた。 七月 三辺金蔵留学より帰国。
「英国社会運動史に就て(一)」(雑録) 第一二卷第二号 「英国社会運動史に就て(二・完)」(雑録) 第一二卷第三号 「フェルデナンド・ラッサルと独逸労働者(一)」第一二卷第五号 「貧困論」(雑録) 第一二卷第六号 「フェルデナンド・ラッサルと独逸労働者(二)」第一二卷第七号 「フェルデナンド・ラッサルと独逸労働者(三)」第一二卷第八号 「フェルデナンド・ラッサルと独逸労働者(四)」第一二卷第九号 「フェルデナンド・ラッサルと独逸労働者(五)」	「所得を中心とする経済理論の結構(一)」(営利と享楽) (論説) 第一〇卷第一〇号 「英国戦後財政改革の一案」(雑録) 「所得を中心とする経済理論の結構(二・完)」(営利と享楽) 第一〇卷第一一号	
	大隈首相襲われ、寺内内閣成立○工場監督官設置○夏目漱石死。 (独) スバルタクス団結成、反戦運動展開。 (英) ロイドジョージ内閣。 (露) レーニン「帝国主義論」。 (英) ラッセル「社会改造の原理」。 中島力造「英国功利説研究」、朝永三十郎「近世に於ける我が自覚史・独逸思想とその背景」、津田左右吉「文学に現はれた我が国民思想の研究」、吉野作造「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」(中央公論)、中条百合子「貧しき人々の群」(中央公論)。	
	長崎三菱造船所大スト○金輸出禁止○石井ランシング協定。 (露) ロシア革命、ケレンスキー倒れてソヴィエト政府成立。 (英) 対独宣戦、大戦参加。 ○英仏独などで反戦ストライキ頻発。 (独) シュベンクラ「西洋の没落」。 左右田善一郎「経済哲学の諸問題」、河上肇「貧乏物語」。	

小泉信三博士年譜および著作目録

「完」第一一巻第一〇号  
「トオマス・ホジスキンの労働全取権主張——  
“Labour defended etc.”梗概——」(雑録)  
第一一巻第一二号

病氣静養のため一年あまり大学  
を休講、長男信吉生誕。  
三月 福田徳三教授塾を去る。  
一二月 大学令公布。従来の専門学校  
令の適用という私学の差別扱いが廃  
止された。

1918年(大正7年)

三月 各学科長は教授会の互選とな  
る。  
四月 医学科本科一年授業開始。  
一〇月 鎌田塾長国際労働大会に政府  
代表正使としてアメリカへ出発。

「学問芸術と社会主義」第一三巻第一二号  
「カウツキイ校訂『資本論』第一巻平民版」(新  
刊紹介) 第一三巻第一二号

米騒動(参加六〇万、被検者二万五千以上)起る、関  
係新聞記事禁止、大阪朝日白虹事件〇シベリア  
出兵、ロシア革命に武力干渉〇寺内内閣倒れ原  
内閣(政友会、最初の純政党内閣)成立、普選要求を  
斥ける〇第一次大戦終結して経済反動〇この頃  
より本格的な金融独占資本主義へ発展〇この頃  
大正デモクラシー、白樺派、新カント派哲学、  
文化主義、人格主義、教養主義、人道主義など  
の運動が高まって、武者小路実篤ら「新しき村」  
を日向に建設、吉野作造、福田徳三ら黎明会を  
組織、東大新人会、早大晩国会建設者同盟など  
生まれる〇デューイ来朝。  
(ソ) ソヴェト共和国憲法可決。  
(独) 十一月革命、ドイツ帝国崩壊、社会民主党ユーベルト  
政権。  
吉野作造「民本主義の意義を説いて再び憲政有終の美を済すの  
途を論ず」(中央公論)、武者小路実篤「新しき村の生活」、阿  
部次郎「三太郎の日記」、徳富猪一郎「近世日本国民史」、田辺  
元「科学概論」、権藤成卿「農村自救論」、河上肇「社会問題管  
見」、福田徳三「労働経済講話」、北沢新次郎「労働者問題」。

パリ平和会議、膠州、山東州を要求して承認〇普  
選要求運動盛んとなる、東京、名古屋で普選期  
成大会、東京でデモ、全国有志大会〇労働争議、  
組合結成増加、東京砲兵工廠、石川島造船、足

1919年(大正8年)

(大正9年)

病氣全快。  
三月 増井幸雄留学より帰る。  
四月 新学制を編成し、文学、経済学、  
法学、医学の四学部よりなる綜合大  
学とし、別に予科・大学院をおく。  
修業年限は予科三年、各学部三年(医  
のみ四年)、大学院は年限を定めず。  
〇従来の理財科を経済学部と改称。  
学部長は堀江堀一教授(従前の理財  
科主任)が就任〇経済学部の選択科  
目を甲乙二群にわけ、甲に「研究  
会」(一単位)をおき「卒業論文」を  
課した。必修科目は甲乙共通で、経  
済原論・経済学研究(英語)・貨幣銀  
行論・財政学・商業政策・統計学・  
民法・商法・英語。

小泉信三博士年譜および著作目録

「再論 Guild Socialism (一)」第一四巻第二号  
「再論 Guild Socialism (二)」第一四巻第三号  
「再論 Guild Socialism (三・完)」第一四巻第  
四号  
「Bowley 教授の悲観的論断」(新刊紹介) 第一  
四巻第四号  
「地代論と社会主義」第一四巻第六号  
「Summa Theologica」の英訳」(新刊紹介) 第  
一四巻第六号  
「社会主義者の『歴史的法的』資本観概略」  
第一四巻第七号  
「高島素之訳『資本論』第一巻」(新刊紹介) 第

尾銅山スト、神戸川崎造船サボ〇朝鮮独立要求  
のデモ激化、三・一事件〇大原社会問題研究所  
設立〇大杉栄ら労働運動社を結成〇大川周明、  
北一輝ら猶存社を結成(フアンズム運動の原流)〇平  
塚雷鳥ら新婦人協会創立〇松井須磨子自殺。  
(独) スバルタクス団の革命弾圧、リブクネヒトとローザ・  
ルクセンブルグ暗殺。ワイマル憲法採択。  
(ソ) 第三インター(コミンテルン)成立。  
(ハンガリー) プロレタリア革命。  
(中) 排日五・四運動起る。  
(伊) ムッソリーニ、ミラノにイタリア戦闘者同盟を組織。  
吉野作造「普通選挙論」、権藤成卿「自治民権」、賀川豊彦「精  
神運動と社会運動」、河田綱郎「社会問題及社会運動」、田中玉  
堂「徹底的個人主義」、山川均「社会主義者の社会観」、鈴木文  
治「日本の労働問題」、北一輝「日本改造法案大綱」、和辻哲郎  
「古寺巡礼」、津田左右吉「古事記及び日本書紀の新研究」、竹  
越与三郎「日本経済史」、高島素之「資本論解説」、松浦・生田訳  
「資本論」、河上肇「賃労働と資本」、「社会主義研究」、「社会問  
題研究」、「我等」、「改造」、「解放」、「女性同盟」など創刊。  
戦後大恐慌、銀行取付六七行〇全国普選期成連  
盟、普選期成全国労働大連盟結成、東京で大デ  
モ、普選案は衆院で否決され、尾崎、犬養毅が普  
選同盟会結成〇上野公園にて日本最初のメーデ  
ー〇森戸辰男事件〇八幡製鉄、東京市電スト〇  
友愛会において麻生、棚橋らの直接行動論と賀  
川らの普選必要論対立〇堺、大杉、山川ら日本  
社会主義同盟(社会主義者の最初の統一組織)結成  
〇海軍拡張案可決〇東京商科大学設立。  
(独) ハリで国際連盟成立。  
(印) 国民会議、ガンジーの非協力案可決。  
(独) ウェーバー死。  
森戸辰男「トロポトキンの社会思想の研究」(経済学研究、

1920年

七月 学位規程成る。

一四卷第八号  
 「Thomas Aquinas の利息論」(雑録) 第一四卷第九号  
 「ロオドベルトスの地代論とリカルドオ(一)」第一四卷第一〇号  
 「ロオドベルトスの地代論とリカルドオ(二・完)」第一四卷第一一号  
 「高橋誠一郎著『経済学史研究』(新刊紹介) 第一四卷第一二号」  
 「手塚寿郎著『ゴッセン研究』(新刊紹介) 第一四卷第一一号」  
 「落合昌太郎著『社会生活学』(新刊紹介) 第一四卷第一二号」  
 ◇著書  
 「社会問題研究」岩波書店  
 「経済学説と社会思想」国文堂

高島詠「資本論」(一二年)、河上肇「唯物史観研究」、高島素之「社会問題総覧」、吉野作造「社会改造運動における新人の使命」、賀川豊彦「死線を越えて」、西田幾多郎「意識の問題」、和辻哲郎「日本古代文化」、坂口昂「概観世界思潮」、手塚寿郎「ゴッセン研究」、滝本誠一「日本経済史」、厨川白村「象牙の塔を出て」、豊崎善之助「普仏戦争以後の独逸経済」、野村兼太郎「経済文化と哲学」。

一六四 (一三三四)

(大正10年)

「ロオドベルトスの経済学説補遺(一)」第一五卷第一号  
 「ロオドベルトスの経済学説補遺(二)」第一五卷第二号  
 「堀江婦一著『社会経済研究』(新刊紹介) 第一五卷第三号」  
 「ロオドベルトスの経済学説補遺(三)」第一五卷第三号  
 「森戸辰男訳『近世社会主義思想史』(新刊紹介) 第一五卷第五号」  
 「リカルドオ略年譜」(雑録) 第一五卷第六号  
 「福田徳三著『改訂増補国民経済講話』(新刊紹介) 第一五卷第七号」

原敬暗殺、高橋(政友会)内閣成立○ワシントン海軍縮小会議○日本海員組合結成○サンジカリズム全盛期○神戸三菱造船サボ、神戸川崎造船スト○友愛会、日本労働総同盟と改称、普選運動を無視○暁民共産党事件○日英米仏四国協商四国協定なり、日英同盟廢棄○プロレタリア文学運動始まる。  
 (伊) イタリア共産党、イタリア・ファッショスト党結成。  
 (ソ) ネット採用。  
 (中) 共産党結成。  
 長谷川如是閑「現代国家批判」、河上肇「社会組織と社会革命」、福田徳三「経済学論攷」、土田杏村「マルクス思想と現代文化」、美濃部達吉「日本憲法」、倉田百三「愛と認識との出

1921年

介) 第一五卷第七号  
 「リカルドオの通貨論(一)」第一五卷第八号  
 「リカルドオの通貨論(二)」第一五卷第九号  
 「無産階級独裁とソヴェト制度」Karl Diehl, Die Diktatur des Proletariats und das Räte-system, Jena 1920. (新刊紹介) 第一五卷第九号  
 「リカルドオの通貨論(三・完)」第一五卷第一〇号  
 「マルサスのリカルドオ批評一斑」(雑録) 第一五卷第一一号  
 「リカルドオの機械論」第一五卷第一二号  
 ◇著書  
 「社会組織の経済理論的批評」下出書店

発、西田天香「懺悔の生活」、木下尚江「田中正造翁」、波多野精一「西洋宗教思想史」、佐野学「露西亞經濟史研究」、界説「空想的及科学的社会主义」、天野訳「純粹理性批判」、種時く人」創刊。

長女加代生まれる。庭球部長となる。

四月 専門学校令による専門部創設。  
 四月 野村兼太郎留学に出発。  
 六月 鎌田塾長辞任(加藤内閣に文部大臣として入閣)。門野幾之進に塾長事務嘱託。  
 一二月 福沢社頭が塾長を兼任。

1922年(大正11年)

「リカルドオの価値論(一)」第一六卷第二号  
 「上田貞次郎著『社会改造の企業』(新刊紹介) 第一六卷第二号」  
 「リカルドオの価値論(二)」第一六卷第三号  
 「リカルドオの価値論(三)」第一六卷第四号  
 「リカルドオの価値論(四)」第一六卷第五号  
 「リカルドオの価値論(五)」第一六卷第六号  
 「統一リカルドオの価値学説論(一)」第一六卷第八号  
 「統一リカルドオの価値学説論(二)」第一六卷第九号  
 「エンゲルスのロオドベルトス批評(一)」(雑録) 第一六卷第一〇号  
 「資本論」以前に於けるマルクス価値論、価格

○ワシントン条約調印・海軍軍縮○加藤内閣成立○日本共産党創立、山川の方向転換論、サンジカリズムを批判してアナ・ボル論争○日本農民組合結成、京都に全国水平社大会○過激社会運動取締法案貴院通過、衆院否決○日英同盟廢棄○健康保険法公布○資本蓄積論をめぐる福田一河上論争、価値論をめぐる小泉一山川・河上・櫛田論争○森鷗外死。  
 (伊) 全国的に労働者とファッショスト衝突、ムッソリーニ、ローマへ進軍。  
 (ソ) 第一回全連邦ソヴェト大会、ソヴェト社会主義共和国連邦樹立宣言。  
 (印) ネルースラジ党結成。  
 山川均「無産階級運動の方向転換」(前掲)、長谷川如是閑「現代社会批判」、福田徳三「社会政策と階級闘争」、界利彦「社会

小泉信三博士年譜および著作目録

一六五 (一三三五)

1923年 (大正12年)		<p>論 第一六卷第一一〇号</p> <p>「エンゲルスのロオドベルトス批評(二)」(雑録) 第一六卷第一一〇号</p> <p>「地代論に於けるマルクスとロオドベルトス」 第一六卷第一一〇号</p> <p>「小島幸治訳『近代英国社会主義史』(新刊紹介) 第一七卷第一号</p> <p>「社会主義と国家(一)」 第一七卷第二号</p> <p>「社会主義と国家(二)」 第一七卷第三号</p> <p>「社会主義と国家(三)」 第一七卷第四号</p> <p>「社会主義と国家(四)(完)」 第一七卷第五号</p> <p>「アダム・スミスの理論経済学概論」 第一七卷第七号</p> <p>「アダム・スミス論補遺」 第一七卷第八号</p> <p>「Jahrbuch für Wirtschaft, Politik und Arbeiterbewegung 1922/23 Verlag der kommunistischen Internationale Auslieferungsstelle für Deutschland. Carl Haym Nachf, Louis Cahnbey, Hamburg 8.」(新刊紹介) 第一七卷第九号</p> <p>「社会政策の原理——Pigou, The Economics of Welfare を読む——」 第一七卷第一〇号</p> <p>◇著書</p> <p>「価値論と社会主義」 改造社</p>	<p>主義大意、吉野作造「二重政治と権威主義」、有島武郎「宣言一つ」、高田保馬「社会と国家」、荒畑寒村「日本社会主義運動史」、片山潜「自伝」、阿部次郎「人格主義」、桑木政賢「文化と改造」、朝永三十郎「カントの平和論」、平林初之輔「文芸運動と労働運動」(種詩人)、左右田喜一郎「経済哲学の諸問題」、中村孝也「稿本国民文化史概論」、内藤訳「家族・私有財産・国家の起源」、野村兼太郎「アシュレー英国経済史及学説」(前掲) 発刊。</p> <p>過激社会運動取締法案、労働組合法案、小作爭議調停法案に対する反対運動激化○東京で普選即行要求国民大会、デモ○第一次共産党検査事件○関東大震災、朴烈事件、魚戸事件、震災恐慌○第二次山本内閣成立して普選実施声明、戒嚴令○甘粕事件、大杉榮夫妻殺され、アナーキズム後退○虎の門事件で山本内閣辞職○日本労働組合連合会結成○ILO帝國事務所成る○上杉、高島ら経倫学盟結成○有島武郎自殺。</p> <p>(独) フランス、ベルギー軍ル地方を占領、ヒットラーの運動起る、戦後インフレーションによりマルク大暴落、レンテンベルク紙幣発行。</p> <p>(英) 労働党総選挙に勝つ。</p> <p>(中) 孫文の国民党、親ソ容共政策を開始。</p> <p>河上肇「資本主義経済学史的発展」、河合栄治郎「社会思想史研究」、大山郁夫「政治的社会的基礎」、上田貞次郎「英国産業革命史論」、佐野学「日本経済史概論」、青野季吉「階級闘争と芸術運動」(種詩人)、西田幾多郎「芸術と道徳」、田山花袋「近代の小説」、山本宣治「性教育」、佐野訳「経済学批判」。</p> <p>清浦(特権)内閣成立、第二次護憲運動起り、総選挙に護憲三派大勝して加藤(連立)内閣成立、ブルジョア・デモクラシーの絶頂期○山川ら共</p>
1924年 (大正13年)	<p>春、麻布本村町へ移る。この頃より木曜会を開く。</p>	<p>八卷第三号</p> <p>「リカルドオの地代論(三)」 第一八卷第四号</p> <p>「リカルドオの地代論(四)」 第一八卷第五号</p> <p>「リカルドオの地代論(五)」 第一八卷第六号</p> <p>「較差地代と絶対地代(一)」 第一八卷第九号</p> <p>「較差地代と絶対地代(二)」 第一八卷第一〇号</p>	<p>産党解党決議○労働運動、アナーキズムから大衆運動へ進み、社会民主主義と共産主義が対立○産業労働調査所(野坂参三主任)設立○阿部磯雄ら日本フェビアン協会創立○阿部、大山、賀川、島中ら政治研究会結成○社会政策学会解散○小山内、土方らによって築地小劇場創立○婦人参政権獲得期成同盟結成○学生社会科学連合会結成○大川、西田ら行地社を組織。</p> <p>(英) マクドナルド内閣成立。</p> <p>(米) 大統領排日法案に署名。</p> <p>(ソ) レーニン死。</p> <p>大杉栄「自叙伝」、安部磯雄「社会主義の時代」、山川菊枝「社会進化と婦人の地位」、福本和夫「経済学批判のうちにおけるマルクス『資本論』の範囲を論ず」(マルクス主義)、上田貞次郎「産業革命史研究」、本庄栄次郎「日本社会史」、津田左右吉「神代史の研究」、内村鑑三「ロマ書の研究」、堀江鳩一「英国現代の経済」、田辺元「カントの目的論」、青野訳「帝國主義論」、片山訳「国家と革命」、「文芸戦線」、「文芸時代」、「キング」創刊。</p> <p>日ソ基本条約、日ソ利権協約調印、回交回復○普通選挙法公布○治安維持法公布、東京、大阪で反対運動○文教審議会軍事教練施行案可決、都下の大学生九段から芝公園まで軍教反対デモ○全国中等学校に軍事教育を実施○第二次加藤(軍独憲政会)内閣成立○総同盟第一次分裂、共産系は日本労働組合評議会結成○農民労働党(最初の全国的無産政党)結成、即日禁止○国勢調査及び失業統計調査を行なう○ラジオ放送開始。</p> <p>○ ロンドンにてロカール会議開き条約締結。</p> <p>(伊) ファシスト内閣成立。</p>
1923年 (大正12年)	<p>関東大震災にあい、東京に移つて、とりあえず三田の家で年を越す。</p> <p>慶応義塾図書館長となる。</p> <p>四月「経済学部の選択科甲に社会学」と「憲法」をおく。</p> <p>十一月 林毅陸監長となる。</p>	<p>「ラッサアルとマルクス」 第一九卷第一号</p> <p>「ゾムバルトの『プロレタリア社会主義』」 第一九卷第四号</p> <p>「産業予備軍と農民の都市流入」 第一九卷第八号</p> <p>「ラッサアルとロオドベルトス」 第一九卷第一二号</p> <p>◇著書</p> <p>「改訂社会問題研究」 岩波書店</p> <p>「増補価値論と社会主義」 改造社</p>	<p>夏、北品川御殿山の新築の家へ移転。</p> <p>次女妙生まれる。</p> <p>一月 阿部秀助教授死去。</p> <p>四月 専門部を高等部と改称。</p>

1924年 (大正13年)		<p>「ラッサアルとマルクス」 第一九卷第一号</p> <p>「ゾムバルトの『プロレタリア社会主義』」 第一九卷第四号</p> <p>「産業予備軍と農民の都市流入」 第一九卷第八号</p> <p>「ラッサアルとロオドベルトス」 第一九卷第一二号</p> <p>◇著書</p> <p>「改訂社会問題研究」 岩波書店</p> <p>「増補価値論と社会主義」 改造社</p>	<p>夏、北品川御殿山の新築の家へ移転。</p> <p>次女妙生まれる。</p> <p>一月 阿部秀助教授死去。</p> <p>四月 専門部を高等部と改称。</p>
1923年 (大正12年)	<p>春、麻布本村町へ移る。この頃より木曜会を開く。</p>	<p>八卷第三号</p> <p>「リカルドオの地代論(三)」 第一八卷第四号</p> <p>「リカルドオの地代論(四)」 第一八卷第五号</p> <p>「リカルドオの地代論(五)」 第一八卷第六号</p> <p>「較差地代と絶対地代(一)」 第一八卷第九号</p> <p>「較差地代と絶対地代(二)」 第一八卷第一〇号</p>	<p>産党解党決議○労働運動、アナーキズムから大衆運動へ進み、社会民主主義と共産主義が対立○産業労働調査所(野坂参三主任)設立○阿部磯雄ら日本フェビアン協会創立○阿部、大山、賀川、島中ら政治研究会結成○社会政策学会解散○小山内、土方らによって築地小劇場創立○婦人参政権獲得期成同盟結成○学生社会科学連合会結成○大川、西田ら行地社を組織。</p> <p>(英) マクドナルド内閣成立。</p> <p>(米) 大統領排日法案に署名。</p> <p>(ソ) レーニン死。</p> <p>大杉栄「自叙伝」、安部磯雄「社会主義の時代」、山川菊枝「社会進化と婦人の地位」、福本和夫「経済学批判のうちにおけるマルクス『資本論』の範囲を論ず」(マルクス主義)、上田貞次郎「産業革命史研究」、本庄栄次郎「日本社会史」、津田左右吉「神代史の研究」、内村鑑三「ロマ書の研究」、堀江鳩一「英国現代の経済」、田辺元「カントの目的論」、青野訳「帝國主義論」、片山訳「国家と革命」、「文芸戦線」、「文芸時代」、「キング」創刊。</p> <p>日ソ基本条約、日ソ利権協約調印、回交回復○普通選挙法公布○治安維持法公布、東京、大阪で反対運動○文教審議会軍事教練施行案可決、都下の大学生九段から芝公園まで軍教反対デモ○全国中等学校に軍事教育を実施○第二次加藤(軍独憲政会)内閣成立○総同盟第一次分裂、共産系は日本労働組合評議会結成○農民労働党(最初の全国的無産政党)結成、即日禁止○国勢調査及び失業統計調査を行なう○ラジオ放送開始。</p> <p>○ ロンドンにてロカール会議開き条約締結。</p> <p>(伊) ファシスト内閣成立。</p>

1925年	1926年 (大正15年・昭和元年)	1927年 (昭和2年)	(昭和3年)
<p>四月 気賀勲重教授経済学部長となる。予科に体操(各学年二時間)をおく。 九月 新藝監局の建築(翌年五月竣工)。</p>	<p>一月 図書館の増修に着手(翌年八月竣工)。 二月 堀江掃一教授死去。</p>	<p>九月 東京を出発し、満州、北支、上海に遊び、一一月帰国。</p>	<p>九月 東京を出発し、満州、北支、上海に遊び、一一月帰国。</p>
<p>「価値論の価値」 第二〇巻第三号 「労農露西亞に於ける農民問題」 第二〇巻第八号 ◇著書 「近世社会思想史大要」 岩波書店 「近世社会思想及社会運動上に於ける英吉利と露西亞」(銀行叢書第六篇) 東京銀行集会所</p>	<p>「邦訳リカアドオ原論解題」 第二二巻第二号 「リカアドオ原論解題補遺」 第二二巻第五号 「リカアドオ原論の本文」 第二二巻第九号 「リカアドオの死後(リカアドオ原論解題続編)」</p>	<p>第二二巻第一〇号 「ラッサアルとフイヒテ」 第二二巻第三号 「森耕二郎著『労働学説の史的発展』(新刊紹介) 第二二巻第七号 「三木清著『唯物史観と現代の意識』(新刊紹介) 第二二巻第八号 「Boris Brutzkus, Die Lehren des Marxismus im Lichte der russischen Revolution, 1928.」(新刊紹介) 第二二巻九号 ◇著書 「再増補・価値論と社会主義」 改造社 ◇訳書 ラッサアル著「労働者綱領」 岩波文庫 リカアドオ著「経済学及課税之原理」 岩波文庫 ◇編集</p>	<p>「ラッサアルとフイヒテ」 第二二巻第三号 「森耕二郎著『労働学説の史的発展』(新刊紹介) 第二二巻第七号 「三木清著『唯物史観と現代の意識』(新刊紹介) 第二二巻第八号 「Boris Brutzkus, Die Lehren des Marxismus im Lichte der russischen Revolution, 1928.」(新刊紹介) 第二二巻九号 ◇著書 「再増補・価値論と社会主義」 改造社 ◇訳書 ラッサアル著「労働者綱領」 岩波文庫 リカアドオ著「経済学及課税之原理」 岩波文庫 ◇編集</p>
<p>(ソ) トロツキ、ソ連最高委員を解職さる。 (独) ヒンデンブルグ大統領当選。ヒットラー「わが闘争」。 (中) 広東に中華全国総工会組織。上海でゼネスト(五・三〇事件)。上海の反帝國主義暴動に各陸軍隊上陸。 大山郁夫「現代日本の政治過程」 森戸辰男「思想と闘争」 細井和喜蔵「女工哀史」 赤松克麿「日本労働運動発達史」 本庄栄治郎「近世農村問題史論」 福田徳三「経済史研究」 猪俣津南雄「金融資本論」 平野義太郎「法律に於ける階級闘争」 上杉慎吉「国家論」 安倍能成「カントの実践哲学」 朝永三十郎「デカート」 田中玉堂「象徴主義の文化人」 田辺元「数理哲学研究」 石原純「科学の根本問題」。</p>	<p>若槻(憲政会)内閣成立○日本共産党再組織(山形県五色温泉にて)、山川イズムから福本イズムへ○労働農民党(左派)、社会民衆党(右派)、日本労働党(中間派)結成○総同盟第二次分裂○共同印刷、日本楽器スト○労働争議調停法公布○大学、高専に軍事教育実施○岡田文相、学生の社会科学研究絶対禁止通達○全日本学生自由擁護連盟(SL)組織。 (中) 蔣介石、国民党革命軍を組織して北伐開始、漢口占領。福本和夫「山川氏の方向転換論の転換より始めざるべからず」(マルクス主義)、三木清「パスカルにおける人間の研究」 和辻哲郎「日本精神史研究」 森幸二郎「リカアドオ価値論の研究」 大島正徳「近世英国哲学史」 大川周明「日本及び日本人」 石浜知行「ドイツに於ける資本主義の発達」 滝本・向井編「日本産業資料大系」 宮川訳「経済学批判」 山川・西編「レーニン著作集」 「社会問題講座」 刊行開始 「マルクス主義の旗の下に」 創刊。</p>	<p>結成(総裁浜口雄幸)○ジュネーブ軍縮会議○普選第一回府県会議員選挙、無産派二九名当選○コミンテルン二七年テーゼ、山川、福本イズム批判、「労働」講座 派分裂○野田醬油、磐城炭坑、小樽仲仕、芝浦鶴見争議○東京に地下鉄開通○前衛芸術家同盟創立○芥川竜之介自殺。 ○ジュネーブで第一回世界経済会議、国際貿易会議。 (中) 上海でゼネスト、蔣介石反共クーデター、上海、漢口で排日暴動、南京政府樹立、中国共産党広東を占領。 (米) リンドバーク、大西洋横断飛行。 三木清「人間のマルクス主義的形態(思想) 安部磯雄「社会民衆党綱領解説」 美濃部達吉「逐条憲法精義」 西田幾多郎「働くものから見るもの」(一) 和辻哲郎「原始仏教の実践哲学」 吉野作造「政治学研究」 土方成美「マルクス価値論排撃」 滝本誠一「欧洲経済史」 「労働」 創刊、大山・河上監修「マルクス主義講座」 「岩波文庫」 刊行開始。</p>	<p>普選最初の総選挙、無産政党八名当選○第二次、第三次山東出兵、濟南事件、大陸侵攻積極化、関東軍により張作霖爆死○共産党一斉検挙(三・一五事件)○治安維持法改訂、死刑、無期を追加、特高警察新設、憲兵に思想係設置○文部省の思想統制強化、大学高専に学生生徒主事設置の勅令発布○日本商工会議所設立○日ソ漁業条約調印、日独通商条約批准○全日本無産者芸術連盟(テツ)結成、プロレタリア文化運動活発化○全国反戦同盟結成○東京電力、印刷局、海員組合、東京モス争議○小山内薫死。 ○パリで一五カ国代表、クロツク・ブリアン不戦条約調印。 (ソ) トロツキー追放、農業コルホーズ化。</p>

小泉信三博士年譜および著作目録



1928年 1929年(昭和4年) 1930年(昭和5年) (昭和6年)

「福沢論吉撰集」 岩波文庫

(中) 国民軍北京入城、南京を首都として全国統一、治外法権と不平等条約破棄宣言。  
「マルクス・エンゲルス全集」(一九年)、河上肇「資本論入門」、改造社「経済学全集」(一九年)、「明治文化全集」(一五年)、資本論入門「社会思想全集」刊行開始、三木清「唯物史観と現代の意識」、河上肇「経済学大綱」、猪俣津南雄「帝国主義研究」、高橋龜吉「日本資本主義発達史」、黒正蔵「百姓一揆の研究」、蔵原惟人「プロレタリア・レーニン主義への道」(戦後)、佐野・西「スターリン・ブハーリン著作集」、木庄栄治郎「経済史概論」、福田徳三「唯物史観経済史出立点の再吟味」、小林良正「ドイツ経済史要」、野村兼太郎「英国資本主義成立史」、滝本誠一編「日本経済大綱」。

「邦訳マルサス人口論解題」 第二三巻第九号  
「橋樑著『官僚の社会主義』(新刊紹介) 第二三巻第二号  
『The Growth of Philosophical Radicalism by Elie Halévy. Translated by Mary Morris, 1923.』(新刊紹介) 第二三巻第三号  
『近刊のマルクス伝二種』(新刊紹介) 第二三巻第五号  
◇著書  
「リカアドオ研究」 鉄塔書院  
「マルクシズムとボルシェビズム」 千倉書房

「搾取の理論」 第二四巻第六号  
「蘇聯新々経済政策以後」 第二四巻第一二号  
◇訳書

浜口(民政党)内閣成立○世界大恐慌始まる○官吏減俸案決定するも判検事らの反対で撤回○労働党山本宣治刺殺事件○共産党員大檢舉(四・一六事件)○大山郁夫ら新労働党結成○プロレタリア科学研究所創立○社会政策審議会設置○東京市電、横浜船渠、横浜市電、東洋モス争議○プロレタリア作家同盟創立。  
(米) ウォール街株式市場大暴落、農村不況深刻化。  
(仏) パリ株式市場大暴落。  
(ソ) 第一次五カ年計画着手、トロツキー国外追放。  
(印) 全印度国民会議大衆的不服従運動決議。  
○ヘック賠償会議、ヤンク案審議。  
小林多喜二「蟹工船」(戦後)、徳川直「太陽のない街」(戦後)、吉野作造「日本無産階級論」、土田香村「思想問題と独占」、堀部達吉「英国労働党のイデオロギ」、高田保馬「価格と独占」、堀部達吉「リカアドオの価値論及びその批判史」、波多野鼎「価値学説史」、服部之總「明治維新史」、羽仁五郎「転形期の歴史学」、戸坂潤「科学方法論」、「プロレタリア科学」創刊。

金輸出解禁○ロンドン海軍軍縮会議、日英米協定成立○諸株式一斉暴落○全国一斉に共産党檢舉(二月事件) ○鐘紡、東京市電スト、農村豊作

リカアドオ著「経済及租税原論」(経済学古典叢書4) 岩波書店

飢饉○浜口首相東京駅で狙撃される○全国労働組合結成○思想問題に関して私立大学学長会議  
○平野義太郎、山田盛太郎、三木清ら檢舉○陸軍将校協会結成○社会経済史学会創設。  
○ 国際決済銀行設立。  
(独) ナチス第二党となる、共産党進出。  
(米) 銀行破産続出、失業救済委員会設置。  
(印) 会議派大会、完全独立を決議、各地に反英暴動起る、ガンジー捕縛。  
野呂栄太郎「日本資本主義発達史」、河上肇「第二貧乏物語」、津田左右吉「日本上代史研究」、西田幾多郎「一般者の自覚的体系」、桑本敏賢「哲学概論」、河合榮治郎「トマス・ヒル・グリーンの思想体系」、猪俣津南雄「日本無産階級の戦術」、美濃部達吉「現代憲法評論」、蔵原惟人「ナツプ芸術家の新しい任務」(戦後)、大内兵衛「財政学大綱」、高田保馬「経済学新講」(一七年)、森耕二郎「労賃学説の史的発展」、村岡典嗣「日本思想史研究」、丸尾周造「いき」の構造、石浜知行「アメリカ資本主義発達史」、木村靖二「日本農民闘争史」、阿部知二「主権的文学論」、山田清三郎「日本プロレタリア芸術運動史」、「マルクス主義の旗の下に」創刊、春秋社「世界大思想全集」。

「余剰価値と利潤」 第二五巻第一二号  
◇著書  
「経済原論」(現代経済学全集第二巻) 日本評論社

凶作、小作争議激化、資本主義危機に直面○第二次若槻内閣、ついで犬養(政友会)内閣成立○満洲事変起る、国際連盟理事会の撤兵勧告を拒否、上海排日運動激化のため陸戦隊出動、満洲に宣統帝を擁立せんとす○重要産業統制法公布、官吏減俸実施、金輸出再禁止○三井財閥のドル買い問題化○全国労働大衆結成(社会民主主義統一)、対華出兵に反対○共産党三一年テーゼ採択、極左冒険主義化○井上日召ら血盟団結成、全日本愛国者協同闘争協議会創立(右翼の運動統一)、右翼労働組合、日本労働クラブを結成○

小泉信三博士年譜および著作目録

1931年

二月 「福沢諭吉伝」 刊行。  
四月 経済学部第二選択科目に倫理学  
(東洋・西洋) 2をおく。  
四月 経済学部助教授をおく。  
五月 創立七十五年記念式挙行。  
八月 滝本誠一教授死去。

「ソギエト五周年計劃概論」(慶應義塾創立七十  
五年記念論文集) 第二六卷第一〇号  
◇著書  
「アダム・スミス伝」(偉人伝全集第二卷) 改  
造社

桜会、錦旗革命事件○ナツプ解消して日本プロ  
レタリア文化同盟(コップ)結成。  
(米) フーバー、モラトリアム宣言。  
(英) 金本位制離脱、各国も続く。  
(西) 共和革命。  
蔵原惟人「芸術理論に於けるレーニン主義のための闘争」(ナ  
ツプ)、向坂・榎田・宇野・山田「資本論体系」、河合榮治郎「社  
会政策原理」、高田保馬「マルクス価値論の吟味」、山口正太郎  
「重農学派経済学」、菊川忠雄「学生社会運動史」、三木清「観念  
形態論」、吉野作造「対支問題」(「ヘーゲル全集」)、岩波講座・  
哲学」刊行開始。

1932年(昭和7年)

一 一月、塾長に就任。  
四月 予科の体操を教練とした。自然  
科学・政治学通論をおく(但し生物  
学廃止)。なお国漢の時間をふやし  
英語・数学・地理を減じた。

「アダム・スミス蔵書目録新版」 第二七卷第五  
号  
「シドニー・エツプのソギエト露西亜観」 第二  
七卷第六号  
◇著書  
「師・友・書籍——私の評論集——」 岩波書店  
「マルクス死後五十年」 改造社  
「マルクシズム」(世界経済問題講座第四部世界  
経済政策) 春秋社

上海事変、リットン調査団訪日、国連総会日華  
停戦勧告決議、日華停戦交渉協定成立○満洲国  
建国宣言、日満議定書調印、三井三菱対満三千  
万円融資を契約○五・一五事件、犬養首相暗殺  
され、斎藤内閣(政官協協力)成立○井上、団  
暗殺○社会大衆党結成(合法無産政党的戦線統一)○日  
本労働組合会議結成(右派労組の全国統一機関)○共産  
党、三一年テーゼを批判して三二年テーゼ決定、  
天皇制の評価重視、熱海事件○東京各所で米よ  
こせデモ○戸坂潤ら唯物論研究会組織、唯物論  
全書刊行○大日本国防婦人会結成○坂田山心中  
事件、エログロの報道盛ん。  
(独) 賠償不払宣言、総選挙にナチス第一党。  
(英) オッタワ英帝国内閣会議。  
(米) 満洲国不承認宣言、ルーズベルト大統領に当選。  
「日本資本主義発達史講座」(十八年) 刊行、長谷川如是閑「日  
本フアンズム批判」、滝川幸辰「刑法論本」、戸坂潤「イデオロ  
ギー概論」、三木清「歴史哲学」、西田幾多郎「無の自覚的限  
定」、田辺元「ヘーゲル哲学と弁証法」、高橋里美「全体の立  
場」、川合貞一「マルクシズムの哲学的批判」、土方成美「フア  
ンズム」、橋孝三郎「日本愛国革新主義」、市川正一「日本共産

党小史」、高橋誠一郎「重商主義経済学説研究」、五島茂「ロバ  
ート・オウエン著作史」、林房雄「作家のために」、小林多喜二  
「党生活者」、金融研究会「恐慌と世界経済」、世界経済問題叢  
書。

1933年(昭和8年)

経済学博士の学位を受ける。  
二月 元塾長鎌田米吉死去。

◇著書  
「アダム・スミス、マルサス、リカアドオ(正統

満洲国経済建設大綱発表、国際連盟脱退○北京  
に侵攻、日中停戦協定成立○米穀統制法公布、  
日本製鉄会社法公布(国家統制本格化)○閣議、思想  
対策協議会の設置決定○京大滝川事件○富田、  
久原ら軍部に対抗して政連合運動○新居、秋  
田、三木、木村、徳田ら学芸自由同盟結成○大  
塚、河上、三枝、宮本、野呂ら檢舉されて左翼  
崩壊、小林多喜二虐殺される。佐野、鍋山ら転  
向、転向者続出○社会大衆党、国家資本主義と  
民族主義に転向○松岡ら政連合消滅結成○在  
郷軍人を中心に明倫会組織○日本国家社会主義  
全国協議会結成○日本資本主義論争(一二年)、  
マニユフアクチュア論争。  
○ ロンドン世界経済会議。  
(米) 金輸出禁止、ニュー・ディール政策に着手、AAA  
TV A制定。  
(独) ヒットラー内閣成立、国会議事堂放火事件、議会ヒッ  
トラーに独裁権を与える、外債モラトリアム実施宣言、国  
際連盟と軍縮会議から脱退、アインシュタイン追放。  
三木清「不安の思想とその超克」(改造)、西田幾多郎「哲学の  
根本問題」、津田左右吉「上代日本の社会及び思想」、服部之総  
「明治維新史研究」、上田貞次郎「日本人口問題研究」、中山伊  
知郎「純粋経済学」、森戸・登「剰余価値学説略史」、向坂逸郎  
「地代論研究」、室伏高信「マルクスを乗り越えて」、佐野学「コ  
ミンタインとの訣別」(改造)、「文学界」創刊。  
ワシントン海軍軍縮条約廃棄○帝人疑獄事件で  
斎藤内閣倒れ、岡田(官僚)内閣成立、政党勢力

小泉信三博士年譜および著作目録

1936年(昭和11年)	1935年	(昭和10年)	1934年(昭和9年)
<p>渡米してハーバード大学創立三〇〇年祝典に参列。アメリカ各地の大学や一般的教育事情を視察して帰国。 この頃 予科に断髪令。</p>			<p>四月 高橋誠一郎教授経済学部長となる。 五月 神奈川県日吉台に校舎完成し、予科を移す。 七月 伊藤秀一教授死去。</p>
	<p>◇著書 「学窓雑記」 岩波書店</p>		<p>「派経済学研究」 岩波書店 「経済学史」(高橋誠一郎、増井幸雄、加田哲二と共著、経済学全集49) 改造社</p>
<p>二・二六事件、全国証券商品取引市場取引中止、東京に戒厳令、広田内閣成立、皇道派に対する肅正開始○寺内陸相自由主義排撃声明、齋藤隆夫演説○メーデー禁止通達○軍部大臣現役復活○不穩文書臨時取締法、思想犯保護観察法、言論・出版・集会・結社等臨時取締法制定○日独防共協定、社大党、労働無産者協議会反対声明○米穀自治管理法、重要肥料業統制法、自動車製造業法等の公布○陸軍、各工廠労働者の組合加入禁止、官業総同盟、社大党など陸軍に反対運動開始○三木、尾崎、蠟山らの昭和研究会設立○中野正剛らの東方会結成○昭和研究会結成。</p> <p>(西) 人民戦線派大勝、フランコ叛乱。 (伊) 議会制度解消、エチオピア併合。 (仏) 人民戦線派勝利、レオンブルム組閣。 (中) 西安事件。</p> <p>徳富猪一郎「我等の日本精神」、権藤成卿「自治民政理」、木下半治「日本ファシズム史」、新田正道「ファシズムの社会観」、矢内原忠雄「民族と平和」、永田広志「日本唯物論史」、ねずまさし「フランスのファシズムと人民戦線」、茅野浩々「ドイツ浪漫主義」、大河内一男「独逸社会政策思想史」、清水幾太郎</p>	<p>○コミンテルン大会、人民戦線方式を採用。 ○ロンドン海軍軍縮会議。 (中) 中共新方略を決定、抗日統一戦線主張。 戸坂潤「日本イデオロギー論」、和辻哲郎「風土—人間学的考察」、島井博郎「明治思想史」、清水幾太郎「社会と個人」、務台理作「ヘーゲル研究」、小林秀雄「私小説論」、楠田民成「農業問題」、鈴木茂三郎「日本独占資本の解剖」、九鬼周造「偶然性の問題」、波多野精一「宗教哲学」、藤林敬三「経済心理学」、陸軍省軍事調査部「大日本帝國憲法に関する見解」、唯物論全書(一—三年)刊行開始。</p>	<p>天皇機関説攻撃高まり美濃部達吉の著書発売禁○岡田内閣内閣体明徴声明。文部省、各学校へ国体明徴の訓令。思想弾圧激化○共産党指導部壊滅、「赤旗」停刊○真崎事件、永田事件(軍内部の対立激化)、○北満金鉱会社設立、日滿経済共同委員会設立○台湾自治制実施○全日本労働総同盟結成○教学刷新委員会の官制公布。 (独) ザール地方人民投票、ドイツに帰属、再軍備宣言、徴兵法復活、ユダヤ人市民権剥奪。 (米) ワグナー労働法成立。 (伊) 対エチオピア開戦。</p>	<p>退いて軍部独裁進む○満洲国帝政実施○日英通商会議開催○武藤山治暗殺される○一月事件(陸軍皇道派青年将校クーデター計画)○中条百合子檢舉、野呂栄太郎獄死○司法省、思想検事を設置○日本製鉄創立○日本労働組合全国評議会結成(合法左翼の統一達成)○文部省学生部を思想局に再組織、学生のカフェー出入禁止。 (独) 労働組合禁止、ヒットラー総統兼任。 (仏) ファシズム団体進出、社共提携して反ファシズム運動展開、人民戦線結成。 平野義太郎「日本資本主義社会の機構」、山田盛太郎「日本資本主義分析」、河合榮治郎「ファシズム批判」、和辻哲郎「人間の学としての倫理学」、高田保馬「国家と階級」、田中耕太郎「世界法の理論」、佐野・鍋山「日本共産党及コミンタイン批判—一國社会主義について」、美濃部達吉「陸軍国策の総批判」(中央公論)、三枝博音「日本に於ける哲學的觀念論の発達史」、大森義太郎「まてりありすむす、みりたんす」、阿部次郎「世界文化と日本文化」、高橋誠一郎「フリストテレーム」、加田哲二「独逸社会経済史」、慶應義塾金融研究会「恐慌の現段階における世界経済と日本」、陸軍省新聞班「国防の本義と其強化の提唱」。</p>

小泉信三博士年譜および著作目録

1937年(昭和12年)	
<p>一月 慶応義塾長に再選される。</p> <p>二月 氣賀勘重教授病歿。</p> <p>四月 経済学部を経済・商業の二学科にわけ、必修科目は経済原論・経済政策・一般経済史・統計学・財政学・金融論・民法・商法が共通のほか、経済学科には経済学史・社会学・社会政策を、商業学科には経営経済学・交通論・保険学・会計学(以上すべて一単位)と民法・商法(各二単位)を課した。○選択科目は二学科とも共通で、従前の各特殊講義などは、新しく東亜経済事情・産業技術論をおいた。</p> <p>向井鹿松教授辞任。</p>	<p>◇著書</p> <p>「支那事変と日清戦争」 慶応出版社</p> <p>「改訂・マルクス死後五十年」 改造社</p> <p>「経済原論」(現代経済学全集第2巻) 日本評論社</p> <p>「忠烈なる我が将兵―慶応義塾々生諸君に告ぐ―」 慶応義塾</p>
<p>四月 増井幸雄教授経済学部長となる。この頃 塾内の服装検査厳重となる。</p>	<p>◇著書</p> <p>「青年公民読本・経済篇」 日本青年館</p>
<p>「日本文化形態論」、小林良正「露西亞社会経済史」、木村莊之助「日本小作制度論」、高橋里美「存在と体験」。</p> <p>軍部と政友会対立、政局不安のため対米為替統制、林(軍部主導)内閣成立○総選挙で民政政友連合大勝、無産政党進出、近衛内閣成立○蘆溝橋事件、日中戦争開始○北京を占領、上海に陸戦隊上陸、大本営設置(統帥権の独走)○南京虐殺事件○工場事業場管理令、軍需工業動員法、輸出入等臨時措置法、臨時資金調整法、臨時船舶管理法公布○徴兵服役期限延長○総同盟、事変中スト中止を決議、争議激減、社大党国家主義に転向して戦争支持○内務省、言論取締り強化○矢内原事件○左翼的作家、評論家に対し執筆禁止○人民戦線事件、山川、荒畑、美濃部ら検査○産業五ヵ年計画決定○企画院設置。</p> <p>(米) 景気後退、ニューディール宣言、統制強化。</p> <p>(伊) 日独防共協定に参加、国際連盟脱退。</p> <p>(中) 国共合作、抗日民族統一戦線結成、ソソ不可侵条約締結。</p> <p>文部省思想局「国体の本義」、河合栄治郎「時局と自由主義」、矢内原忠雄「国家の理想」(中央公論)、尾崎行雄「日本はどうなるか」、風早八十二「日本社会政策史」、猪俣津南雄「農業問題入門」、内田穰吉「日本資本主義論争」、青山秀夫「独占の経済理論」、高田保馬「利子論」、大塚久雄「歐洲経済史序説」、矢口孝次郎「英国社会経済史」、豊崎稔「貨幣的景気理論」、永田清「現代財政学の理論」、羽仁五郎「白石・論吉」、戸坂潤「現代日本のヒューマニズムと唯物論」、古在由重「現代哲学」、高坂正顕「歴史的世界」、天野貞祐「道徳の感化」。</p> <p>御前会議対華国策決定、第一次近衛声明(蔣介石を相手とせず)○国家総動員法公布(天皇制ファシズム</p>	

1938年(昭和13年)

1938年(昭和13年)	
<p>(純)は黒靴、替ズボン・マフラー禁止。</p> <p>藤原工業大学が設立され、その学長を兼ねる。</p> <p>四月 大陸研究課外講座を開講。</p>	<p>「時局と思想」(産業講座資料12) 神戸市役所 経済局</p> <p>「アメリカ紀行」 岩波書店</p> <p>◇著書</p> <p>「大学生活」 岩波書店</p> <p>「学府と学風」 慶応出版社</p>
<p>の完成)○農地調整法、電力国家管理法、重要産業統制法など公布○張鼓峰事件、日ソ停戦協定成立○広東、武漢三鎮占領○鉄鋼配給統制規則、石炭配給規則実施○産業報國連盟、農業報國連盟結成○荒木文相大学の自治権圧迫、しばしば学生狩り○労農派教授グループ検挙(第二次人民戦線事件)、河合栄治郎事件○唯研事件。</p> <p>(独) オーストリア併合、ヒットラー軍事、外交を独占。</p> <p>(仏) 急進社会党脱退して人民戦線崩壊、ダラディエ右翼内閣成立。</p> <p>○ 独伊仏英ミンヘン会議、英仏の対独妥協。</p> <p>永田広志「日本哲学思想史」、中山伊知郎「均衡理論と資本理論」、杉本栄一「理論経済学の基本問題」、田中訳「プロテスタントイデオロギの倫理と資本主義の精神」、杉村広蔵「経済哲学通論」、奥谷松治「近代日本農政史論」、森戸辰男「オウエン・モリス」、杉村広蔵「経済学方法史」、徳富猪一郎「皇道日本の世界化」、倉田百三「祖国への愛と認識」、高山岩男「哲学的人間学」、大塚久雄「株式会社発生史論」。</p> <p>平沼内閣、ついで阿部内閣成立○絹織物五種に公定価格、軍用資源秘密保護法公布、米穀配給統制法公布、物価統制大綱を決定、統制経済強化される○ノモンハン事件、日ソ停戦協定成立○国民徴用令公布○価格停止令、賃金統制令、地代家賃統制令、小作料統制令、米穀強制買入省令など公布○東京で日英会談○日滿華経済協議会開く○中央物価統制協力会議結成○河合栄治郎起訴、休職○内務省、自由主義的出版言論取締り○大学軍事教練必修課目となる。</p> <p>(独) 独ソ不可侵条約締結、ポーランド侵入。</p> <p>○ 英仏、対独宣戦布告、第二次大戦。</p>	

小泉信三博士年譜および著作目録

1940年 (昭和15年)

水上瀧太郎死去。  
六月 文・経・法学部に正科目として国防講座をおく。

◇著書  
「塾の徽章」 慶応義塾

(一) 対フィンランド開戦、国際連盟ソウイェトを除名、大川周明「日本精神研究」日本二千六百年史、三宅實嶺「祖国の姿」、高橋里美「歴史と弁証法」、波多野精一「宗教哲学序論」、羽仁五郎「ミケルアンジェロ」、中山伊知郎「ケインズ一般理論解説」、堀経夫「地代論史」、白杉庄一郎「国民経済学研究」、塩尻公明「ペンサムとコルリツチ」、寺尾琢磨「統計学の理論と方法」。

米内内閣、ついで第二次近衛内閣成立、新体制声明○社会大衆党、政友会、民政党解党(政友政治、無産政運動終る)○日独伊三国同盟成立○大政翼賛会発会、大日本産業報国会結成○皇紀二千六百年祝典○日米通商条約失効、更新交渉不調で政府苦しむ○斎藤隆夫、反軍演説により議會から除名(軍部への屈伏)、○日本軍印印へ進駐○日華基本条約日滿華共同宣言調印○大日本農民組合解散、日本労働組合同議解散○内閣情報局開設、文化統制を強化、日本出版協会結成○キリスト教各派純正日本キリスト教会として再出発○津田左右吉の著書発禁、起訴○文化思想団体の政治活動禁止○新協、新築地劇団員検査、解散。

(二) 共産党員の議席剥奪、ベタン政府独軍に降服、レジスタンス運動起る。  
(三) ノルウェー、デンマーク、ベネルルクス三国に侵入、パリを占領。  
西田幾多郎「日本文化の問題」、田辺元「歴史的現実」、羽仁五郎「現代日本の起源」、和辻哲郎「日本倫理思想史」、大河内一男「社会政策の基本問題」、原田綱「政治思想史概説」、大道安次郎「スミス経済学の生成と発展」、岸本誠二郎「価格の理論」、下村海南「昭和の維新」、奥井復太郎「現代都市論」、藤林敏三「労働科学論」、永田清「戦争経済の潮流」、河合榮治郎「学生に与う」、野村兼太郎「一般経済史概論」、岩波講座「倫理学」刊行開始。

1941年 (昭和16年)

一月 塾長に三選される。池田成彬評議員会議長となる。  
四月 本科にも断髪令。  
六月 野村兼太郎、慶應義塾経済学会の会長となる。  
八月 慶應義塾報国隊を結成、学生局設置(従来の学生課を拡大)。

◇著書  
「学生に与う」 三田文学出版部

東条内閣成立、真珠湾攻撃、太平洋戦争開始○新聞紙等掲載制限令、国民労働手帳法、国防保安法、治安維持法改正法、生活必需品物資統制令、貿易統制令、国民徴用規則、重要産業団体令、国民学校令、言論出版集結社等臨時取締法など公布○日ソ中立条約成立○翼賛選挙法実施、翼賛議員同盟創立○帝国石油設立(石油事業統制)○ゾルゲ事件○マレー沖海戦、香港占領○新聞連盟結成、新聞事業令公布○ニュース映画強制上映○日本キリスト教団創立○企画院事件。  
(独) キリシヤ、ユーゴ侵入、独ソ戦開始、レニングラード総攻撃、対米宣戦布告。  
(米) 武器貸与法成立、国家非常事態宣言。  
○ 米英洋上会談、大西洋憲章発表。  
○ 英ソ労働組合委員会を組織。  
河合榮治郎「明治思想史の一断面」、三枝博音「三浦梅園の哲学」、植野谷誠「雇用、利子及び貨幣の一般理論」、高橋泰蔵「貨幣的経済理論の展開」、小宮山琢二「日本中小工業研究」、林房雄「転向について」、高山岩男「文化類型学研究」、西谷啓治「世界観と国家観」、三木清「人生論ノート」、三木編「現代哲学辞典」、宇尾野久「独逸農制史序論」。

マニラ占領、ビルマ侵入、シンガポール占領○ジャワ上陸、珊瑚海海戦に敗北、ミッドウェー海戦に敗北、ソロモン海戦、ガダルカナル島撤退して守勢となる、本土初空襲○学徒出動命令○大東亜建設宣言、大東亜建設審議会を創設○日本貿易会以下一二統制会設立、大東亜圏決済通貨を円建とする、衣料切符制実施、海運管理

小泉信三博士年譜および著作目録

1942年(昭和17年) 1943年(昭和18年)

1942年(昭和17年)
亜細亜研究所を開設して所長となる。
三田綱町に移転。
帝国学士院会員となる。
1943年(昭和18年)
二月 学徒出陣。

令公布、企業整備令公布、産業統制法公布、翼賛壮年団、大日本婦人会、日本文学報国会、大日本言論報国会など結成、敵性思想排撃○戦時刑事特別法公布○新聞整理統合、一県一紙制○尾崎行雄、細川嘉六ら起訴。
○米英ソ三国モスクワ会談。
(ソ) スターリンググラド戦で反撃。
高田保馬「民族論」、高坂・西谷・高山「世界史の哲学」、三木清「知識哲学」、南原繁「国家と宗教」、山田雄三「計画の経済理論」、板垣与一「政治経済学の方法」、永田清「財政学の展開」、高村象平「日葡交通史」、上原専祿「独逸中世史研究」、宮本又次「フランス経済史概説」、本庄栄治郎「日本経済思想史研究」、矢口孝次郎「イギリス政治経済史」、徳富猪一郎「興亜の大義」、堀真琴編「現代日本政治講座」、田中美知太郎「ギリシア人の智慧」、鈴木大拙「浄土思想論」、小池基之「水田」。

山本司令長官戦死、アッツ島の日本軍全滅、ブーゲンビル沖海空戦、マキン・タラワ島の日本軍全滅○日独日伊経済協定成立○製鉄工場国家管理、戦時食糧自給対策決定、一七職種に男子就業禁止、女子動員強化、軍需会社法公布、電力動員緊急措置決定○商工経済会、日本商券取引所発足、帝銀設立○大東亜会議開催○都市疎開計画決定○出版事業令公布、出版統制強化、中央公論編集員検査○日本出版協会、日本美術報国会など結成○学徒出陣、徴兵適令を一九歳に引下げ。
○カイロ会談、テヘラン会談。
(伊) バドリオ首相就任、ファシスト党解散、無条件降伏。
(ソ) スターリンググラド攻防戦、独軍全滅。
「国内思想戦費書」、林房雄「勤皇の心」、高坂・西谷・高山、鈴木「世界史的立場と日本」、波多野精一「時と永遠」、出陣「ギ

1944年(昭和19年)

この頃 勤労働員(横浜ゴム・三菱重工・富士電機等)。
三月 増井幸雄教授死去。
十一月 賀賀勲重教授死去、藤原工業大学を工学部として合併。
空襲で火傷を負い、慶応病院入院。退院後は三田の塾長邸に住む。
一〇月 経済学科・商業学科の区別を廃止○必修科目は第一学年のみに経

◇訳書
ジェヴォンズ著「経済学の理論」(寺尾琢磨・永田清と共訳) 日本評論社
◇著書
「戦争と道義」(以印刷代贈写)

リンヤの哲学と政治、大河内一男「スミスとリスト」、増田四郎「独逸中世史の研究」、古島敏雄「近世日本農業の構造」、出口勇藏「経済学と歴史意識」、山田文雄「中小工業経済論」、高橋誠一郎「古版西洋経済学書解題」、小島栄次「経済地理学序説」。
米軍マーンアル群島、サイパン島、グラム島、レイテ島に上陸、マリアナ沖海戦、フィリピン沖海戦にて大敗、神風特攻隊出撃、東京空襲始まる○小磯、米内協力内閣成立○朝鮮台湾に徴兵実施○緊急国民勤労働員、戦時僧侶勤労働員要綱を決定、女子挺身隊結成○企業整備協議会設置、平和産業破壊される○決戦非常措置要綱、一億総武装を決定○「改造」、「中央公論」に弾圧、廃刊命令○大日本教育会、映画報国団、大日本戦時宗教報国会結成○延安の野坂参三日本人解放連盟を組織。
○連合軍、ノルマンディに上陸。
(仏) 連合軍パリ解放、ド・ゴール臨時政府樹立。
○四五カ国、ブレトン・ウッズ連合国通貨金融会議開催。
○米英ソ華、ダンパートン・オークス案発表。
和辻哲郎「日本の巨道、アメリカの国民性」、鈴木大拙「日本の霊性」、家永三郎「日本思想史に於ける宗教的自然観の展開」、土屋喬雄「明治前期経済史研究」、大塚久雄「近代欧洲経済史序説」、小池基之「日本農業構造論」、小松芳尚「封建英国とその崩壊過程」、石井孝「幕末貿易史の研究」、金子武蔵「ヘーゲルの国家観」。

大本営本土作戦計画を決定、米軍硫黄島、沖繩に上陸、空襲激化、鈴木内閣成立して和平方針を決議、広島に原爆、ソ連対日宣戦布告、長崎に原爆、ポツダム宣言受諾、終戦の詔勅放送、東久

小泉信三博士年譜および著作目録

1945年(昭和20年)	(昭和21年)
<p>経済原論、一般経済史・金融論・経営経済学・経済思想史・日本経済論・世界経済論・憲法(各一単位)○第二、第三学年は選択科目(各半単位)を半期ずつとることとした。</p>	<p>母死す。白水会生まれる。 二月 金原賢之助教授経済学部長となる。 四月 高橋誠一郎名誉教授塾長代理に就任。 女子共学を実施。</p>
<p>選内閣成立、降伏文書調印○総司令部日本管理方針発表、戦犯に逮捕令、政治犯釈放、思想警察廃止、幣原内閣成立、GHQ財閥解体を指令、社会党、自由党、進歩党結成、婦人参政権を含む新選挙法成立○GHQプレスコード、新聞通信の自由、労働者団結権、神道の特権廃止、修身、歴史、地理の授業停止など指令○市川正一、戸坂潤、三木清獄死○夕張、美唄炭坑スト、京成電鉄労働者管理、読売労組経営参加権獲得○大内兵衛ら七教授東大に復帰。</p> <p>○ヤルタ会談、ポツダム会談。 ○中ソ友好同盟条約締結。 ○国際連合成立、ユネスコ成立。 ○世界労働者に結成。 ○ニュールンベルグ国際軍事裁判。 ○ブレトン・ウッズ通貨協定調印。 ○(東南ア) インドネシア共和国、ウエトナム共和国独立。 ○大川一司「食糧経済の理論と計画」、西田幾多郎「哲学論文集第六」、吉田精一「日本文学論攷」。</p>	<p>◇著書 「マルクス死後五十年」(増大版) 好学社 「海軍主計大尉小泉信吉」 私家版 「初学経済原論」(既刊の「青年公民読本・経済篇」の改訂改題) 慶応出版社</p>
<p>天皇神格否定、GHQ公職追放、超国家主義団体解散、教育改革など指令○野坂参三掃国○金融緊急措置令公布○労働組合法、労働関係調整法施行○婦人参政権行使により総選挙○吉田内閣成立○極東軍事裁判開く○経済安定本部、物価庁発足○三井、三菱、安田の三社解散決定○改正農地調整法施行○新円切替、傾斜生産方針決定○日本農民組合、総同盟、産別結成、食糧メーデー開かれる○読売、毎日、全炭九州北海道、都労連、国鉄、海員、東芝、全官公労など</p>	<p>◇解題 福沢諭吉著「民情一新」 常松書店 ◇著書 「社会思想史研究」 和木書店</p>

1946年	1947年(昭和22年)
<p>塾長退任。 一月 潮田江次法学部教授、塾長に就任。 六月 慶應ジャーナル発刊。</p>	<p>四月 通信教育部開設(わが国での嚆矢)。 慶應ジャーナルを慶大新聞と改称。</p>
<p>◇著書 「福沢諭吉の人と書翰」 慶友社 「福沢諭吉」(アテネ文庫) 弘文堂 「文学と経済学」 勁草書房 「読書雑記」 文芸春秋新社</p>	<p>◇著書 「福沢諭吉の人と書翰」 慶友社 「福沢諭吉」(アテネ文庫) 弘文堂 「文学と経済学」 勁草書房 「読書雑記」 文芸春秋新社</p>
<p>争議。 ○国連安保理事会成立。 ○ロンドン国際貿易会議、貿易機構憲章を採択。 ○(中) 政治協商会談、内戦始まる。 ○(仏) 第四共和憲法可決。 ○(鮮) 北鮮人民共和国成立。 ○(東南ア) フイリッピン、ビルマ独立。 長谷部訳「資本論」(一、二五年)。</p> <p>新憲法施行、片山内閣成立○公職追放拡大○マッカーサー二・一スト禁止(占領政策の転換)○教育基本法、学校教育法公布、六・三・三制実施○労働基準法、独占禁止法、国家公務員法、農業協同組合法、商工協同組合法公布、民間貿易再開、復興金融庫発足して傾斜生産開始○炭坑国家管理法成立、新物価体系成立○国民協同党、民主党結成○経団連結成○国鉄労組、日教組結成○重税に反対して全国中小工業者大会開く。○家族制度廃止。</p> <p>(英) 炭鉱国有化実施。 (米) トルーマン・ドクトリン声明して冷戦開始、マインヤル・プラン提唱、タ・ハ法成立。 ○東欧九カ国、コミンフォルム設置。 高橋幸八郎「近代社会成立史論」、大塚久雄「近代資本主義の系譜」、大道安次郎「スミス経済学の系譜」、風早八十二「日本財政論」。</p> <p>芦田民社内閣成立、昭電疑獄で倒れ第二次吉田内閣成立○極東軍事裁判判決○経済力集中排除検討のため五人委員来日○マッカーサー、公務員法改正書○米政府経済九原則をマッカーサーに指令○産別民主化同盟結成○官公</p>	<p>◇著書 「福沢諭吉の人と書翰」 慶友社 「福沢諭吉」(アテネ文庫) 弘文堂 「文学と経済学」 勁草書房 「読書雑記」 文芸春秋新社</p>

小泉信三博士年譜および著作目録

1950年(昭和25年)	1949年	(昭和24年)	1948年(昭和23年)
<p>池田成彬死去。 一月 塾監局に部課制を布く。 九月 旧制大学最後の卒業生を送る。 一二月 元塾長林毅陸氏死去。</p>		<p>東宮教育常時参与。 阿部準蔵を婿養子とする。 四月 新制大学発足。 経済学部を経済科・産業科に二分。 必修科目は経済科は経済原論・一般 経済史・経済思想史・経済政策・研 究指導(各四単位)、産業科は経済原 論・一般経済史・金融経済学・経営 経済学・研究指導(各四単位)とす。 基本選択科目はそれぞれ六部門に分 け、各一科目以上を選ばせた。研究 会をやめ、研究指導を設け、半年間 位で三・四学年中に四部門を履修、 それぞれ論文を提出させることにし た。</p>	
<p>◇著書 「読書論」(岩波新書) 岩波書店 「私とマルクシズム、共産主義批判」 新社 「今の日本」 慶友社</p>		<p>◇著書 「共産主義批判の常識」 新潮社 「近世経済思潮概観」 好学社 ◇編集 水上瀧太郎作品集「旅情」</p>	<p>「改訂版・価値論と社会主義」 小石川書房</p>
<p>朝鮮動乱○金詰まりにより中小企業危機○電 産、全炭、全鉄連などスト○コミンフォルム野 坂理論批判、主流派と国際派対立○GHQ、共 産党追放、アカハタ発行停止○新聞、放送、通 信、民間産業、政府機関、地方自治体、教職員 レッド・パージ○農地改革打切り○警察予備隊 創設、海上保安庁強化○追放者一万名を解除○ イールズ事件○都公安条例反対大会○総評結 成、全労連解散され幹部追放○第二次シャープ 勸告案発表○吉田首相、南原氏の全面講和論を 曲学阿世と攻撃○学術会議、戦争のための科学 を行わないことを決議○全学連スト。</p> <p>(米) トルーマン水爆製造命令、炭鉱ストにタ・ハ法。 ○ ストックホルム・アピール。 (英) 中国を承認、労働党少差で勝つ。 (ソ) 第五次五カ年計画着手、中ソ同盟相互援助条約。 (インドネシア) インドネシア共和国発足。 (中) 中共義勇軍朝鮮派兵。 赤松要「世界経済の構造と原理」、末永隆甫「英国近代経済学 序説」、岸本英太郎「日本労働運動史」、大河内一男「経済思想</p>	<p>(ソ) コモン設置。 (米) ボイント・フォア・プログラム提唱。 (英) ボンド三割切下げ。 (独) ドイツ連邦共和国、ドイツ人民共和国成立。 (中) 中共軍北京、南京入城、中華人民共和国成立、国府台 湾に移転。 山田勇「計量経済学の基本問題」、山田雄三「国民所得の計量 理論」、名和統一「国際価値論研究」、五島茂「イギリス産業革 命史研究」、中山伊知郎「資本の理論、遊部久蔵「価値論争史」、 千種義人「厚生経済学の理論」、小池基之「農業近代化の理 論」、上原専禄「独逸中世の社会と経済」、信夫清三郎「マニユ フ・ア・クチュニア論」、桐西光連「日本に於ける産業資本の形成」。</p>	<p>総選挙で民自党大勝、共産党進出、第三次吉田 内閣成立○ドッジ公使、シャープ税制改革調査 団来日○行政整理、定員法成立、労働組合法、 労働関係調整法改正○GHQ国鉄スト即時中止 を命令○国鉄首切り○地域人民闘争激化、スト 増大○下山事件、三鷹事件、松川事件、平事件○ 日独通商協定、日英通商協定調印、通商再開○ 単一為替レート設立○新産別結成○団体等規制 令、人事院規則制定○農地委員選挙○イールズ 反共演説○湯川秀樹ノーベル賞受賞○前進座共 産党へ集団入党○東京都公安条例反対デモで死 傷事件。 ○ 北大西洋条約調印。</p>	<p>労三月闘争、全通全国ストGHQにより禁止さ れる、全通、国鉄非常事態宣言○東宝争議始ま る○電産スト○中央教育復興会議成立、最初の 教育委員選挙行なわれる○学術会議創立○全学 連結成大会。 (米) マーシャルプラン発足。 (独) ベルリン封鎖。 (鮮) 朝鮮人民共和国樹立。 (印) ガンジー暗殺。 (中) 解放军北京へ無血入城。 大熊信行「戦争責任論」、小泉明「ケインズ一般理論」、毎日新 聞「占領秘録」、平野義太郎「ブルジョア民主主義革命」、一橋 新聞「経済学研究の要」、高橋誠一郎「経済学史略」、平井新 代思想史、宇野弘蔵「価値論」、太田可夫「イギリス社会哲学 の成立」、山田勝次郎「地代論争批判」、高木寿一「近世財政 思想史」、高村象平「一般経済史(古代・中世)」、藤田五郎「日 本近代産業の形成」、堀江英一「近代産業史研究」。</p>

小泉信三博士年譜および著作目録



(昭和27年)	1951年(昭和26年)
<p>キリスト教の洗礼を受ける。教名ナタナエル。</p>	<p>麻布広尾町へ移転。 社団法人福沢論吉著作編纂会理事長。 二月 藤林敬三教授経済学部長となる。 四月 新制大学院開設。 経済科・産業科の区別をやめ、研究指導をやめ、研究会を復活した。必修科目は経済原論・一般経済史・英書講読(各四単位)のみとし、基本選択第一部として六部門を設け、第二部を研究会(八単位)、ドイツ書、フランス書講読とした。 図書館学科開設。</p>
<p>◇著書 「平和論」 文芸春秋新社 「近代経済思想史」(既刊の「近代経済思潮概観」改題) 慶応通信 「朝の思想」 雲井書店 「改訂版・初学経済原論」 泉文堂 「福沢論吉——人と書翰——」(東京創元文庫) 創文社 「改訂・経済学及び課税の原理」上下、(岩波文庫) 岩波書店</p>	<p>◇著書 「共産主義と人間尊重」 文芸春秋新社 「私の愛読した作家——文学と経済学——」 啓明社 「マルクス死後五十年」 角川文庫 「私の信条」(岩波新書、安倍能成、志賀直哉らと共著) 岩波書店 ◇編纂 水上滝太郎「貝殻追放」抄・市民文庫42 河出書房</p>
<p>(韓) 李承晩ライン宣言。 ○ NATTO 欧州軍創設、西独の参加を承認。 (仏) 反リッジウェイデモ。 井上・小此木・鈴木「現代日本の歴史」、丸山真男「日本政治思想史研究」、小林昇「重商主義の経済理論」、理論社「資本論の解明」、河出「新経済学大系」、高村象平「アメリカ資本主義発達史」、小松芳喬「英国産業革命史」、高木寿一「現代財政論」。</p>	<p>史、小林昇「フリードリッヒ・リスト研究」、青山秀夫「マックス・ウェーバーの社会理論」、杉本栄一「近代経済学の解明」、千種義人「計画経済概論」、遊部久蔵「価値論と史的唯物論」、山本登「世界経済論」、唯研「西洋近世哲学史」、高島綱「スミス困窮論講義」。</p> <p>マッカーサー解任○平和擁護、単独講和再軍備反対運動高まる○社会党、平和三原則○四九カ国と講和条約調印、安保条約調印○政府、財閥解体完了を発表○炭労スト○マリク停戦提案、平和恐慌○第二次追放解除、ポツダム政令再審査許可○警察法改正○社会党分裂○電産、電源スト○鉄鋼労連結成○共産党新綱領採択。</p> <p>(ソ) 対日講和条約に調印せず。 (印) 休戦会談始まる、不参加。 (鮮) 世界平和評議会、日独の再軍備反対決議。 新庄博「金融論」、栗原百寿「現代日本農業論」、大河内一男「社会思想史」、新明正道「社会学史」、大月「マルクス・エンゲルス選集」、宇野弘蔵「経済原論」、千種義人「資本主義の将来」、羽原又吉「日本漁業経済史」。</p> <p>日米行政協定調印○破防法提案、反対闘争激化、学術会議、破防法反対声明ゼネスト○メーデー事件、吹田事件、東大事件、早大事件・白鳥事件○GHQ兵器製造許可○破防法成立、公安調査庁発足、保安庁発足、警察予備隊増強して保安隊と改称○電産、炭労スト○日印平和条約調印○第四次吉田内閣成立○池田通産相失言。</p> <p>(米) ダレス捲き返し政策を提唱、アイゼンハワー大統領になる、水爆実験成功。</p>

1953年(昭和28年)	1952年
<p>渡米してコロンビア大学より名誉文学博士の学位を受ける。</p>	<p>イギリス女王戴冠式に皇太子出席のため、妻と共にロンドンへ。のちフランス、イタリア、ベルギー、スペイン、ドイツ、スエーデン、スイス、アメリカを廻って帰国。 一〇月 奥井復太郎教授経済学部長となる。</p>
<p>◇著書 「外遊日記」 文芸春秋新社</p>	<p>◇著書 「大学と私」 岩波書店 「平生の心がけ」 文芸春秋新社 「昭和文学全集27、小泉信三篇」 角川書店 「現代随想全集6、小泉信三篇」 東京創元社</p>
<p>M S A 調印発効○学術会議、水爆実験中止声明○デフレ政策○造船疑獄、指揮権発動○ビキニ水爆実験、福竜丸被災○教育二法、防衛秘密保護法、防衛二法成立、防衛庁設置、自衛隊発足○憲法擁護国民連合結成○尼崎製鋼、日鋼室蘭、近江絹糸、証券取引所、全駐券、長崎製鋼などス</p>	<p>第五次吉田内閣成立○内灘使用強行、軍事基地反対闘争強まる○池田・ロバートソン会談○M S A 交渉○朝鮮休戦協定調印○日米行政協定改訂調印○軍人恩給復活○総評、スト規制法案反対でスト○スト規制法成立○独禁法緩和○昭電川崎、神戸製鋼、帝石、全日駐、三井鉱山などスト○ニクソン来日、保安隊増強を強調。</p> <p>(ソ) スターリン死、マレンコフ水爆保有を発表。 (米) ダレス、捲返し政策発表、ローゼンバーク夫妻死刑。 ○ シューマン・プラン発足。 杉本栄一「近代経済学史」、中山相「日本経済の構造分析」、「日本資本主義講座」(一五五年)、出口勇蔵編「経済学史」、今中次郎「西洋政治思想史」、内田義彦「経済学の生涯」、杉山清「マルクス価値論の研究」、石渡貞雄「農業恐慌論」、増田四郎「都市」、飯田貫一「ロシア経済史」、宇野弘蔵「恐慌論」、気賀健三「現代の社会思想」、藤田五郎「近世経済史の研究」、吉岡金市「日本農業の近代化」、近藤康男「日本漁業の経済構造」。</p>

小泉信三博士年譜および著作目録

1954年(昭和29年)

一月 高村象平教授経済学部長となる。

◇著書  
「国を思ふ心」 文芸春秋新社  
「福沢諭吉——人と書翰——」(新潮文庫) 新潮社  
「現代人物論——現代史に生きる人々——」(角川新書) 角川書店  
「遺児の皆さんへ」 神奈川県遺族連合会  
「社会思想問題について」 日本経営者団体連盟事務局

ト○日本・ビルマ平和条約、経済協定調印○鳩山内閣成立。  
(東南ア) ジュネーブ会議、インドナ停戦、SEATO組織。  
藤田・伊東編「中小工業の本質」、川口弘「ケインズ経済学研究」、高橋亀吉「大正昭和財界変動史」、小松芳喬「英国資本主義の歩み」、大川一司「農業の動態分析」、大内力「農業恐慌」、横越英一「ハロルド・ラスキ研究」、「社会学大系」、水田洋「近代人の形成」、高木寿一「近代国家財政の理論」、宇野弘蔵「経済政策論」、桐西光速「日本資本主義発達史」、高村象平「西洋経済史」、野々村一雄「ソヴェート経済論」、市村真一「経済循環の構造」、堀江英一「明治維新の社会構造」、久留間・玉野井「経済学史」、占部都美「近代経営学」、山田雄三「日本経済の野画的考察」、古島・永原「商品生産と寄生地主制」、関嘉彦「英国労働党の社会主義政策」、桑原編「フランス百科全書の研究」。

1955年(昭和30年)

第二次鳩山内閣成立○日本生産性本部成立○日ソ交渉始まる○第一回原水爆禁止大会(広島)○北富士演習場問題○オネストジョン持込み○砂川事件○社会党統一、共産党六全協○民主党自由党合同して第三次鳩山内閣○日中貿易協定調印○総評、中小企業労働者組織化の方針出す○全ビル、全織、紡綿、大阪証券スト○民主党「うれうべき教科書の問題」配布○徳田共産党書記長死亡発表。  
○バンドン会議。  
○ジュネーブ会議。  
○ワルシャワ条約。  
森島通夫「資本主義経済の変動理論」、遠山、今井、藤原「昭和史」、遊部久蔵「古典派経済学とマルクス」、大河内・隅谷「日本の労働者階級」、川田寿「アメリカ労働運動史」、秦玄龍「イギリス・ヨーロッパの研究」、平瀬巳之吉「経済学の古典と近代」、安井琢磨「均衡分析の基本問題」、白杉庄一郎「価値の理論」。

1956年(昭和31年)

慶応義塾大学名誉教授となる。  
塾学事顧問に就任。  
一月 大学教育管理を塾長から分離して学長制を設け、奥井復太郎経済学部長が学長に就任。  
六月 塾長改選に初めて公選制を採用、奥井(経)、阿部(医)、野村(経)の三名につき最終投票を行なった結果、奥井復太郎教授が塾長に就任。従前の学長を塾長に統合。

四月 商学部を設置。学部長には金原賢之助元経済学部長が就任。科目改正、現行のものに移る。  
一〇月 寺尾琢磨教授経済学部長に就任。

小泉信三博士年譜および著作目録

◇著書  
「わが待つ種」 創元社  
「私とマルクシズム」(角川文庫) 角川書店  
◇選集

◇著書  
「思ふこと憶ひ出すこと」 新潮社

論、「マス・コミュニケーション講座」、田中惣五郎「幸徳秋水」、久保田明光「ケネー研究」、今野源八郎「道路交通政策」、平田富太郎「社会政策論研究」、石渡貞雄「農民分権論」、古島敏雄「日本林野制度の研究」、今井・八木「封建社会の農村構造」、山極吉司「木下尚江」、武田・遠藤・大内「近代財政の理論」、森田優三「経済変動の統計的分析法」、木下和夫「国民所得分析」、平竹伝三「ソヴェート経済発展の分析」。  
日ソ交渉再開、漁業条約、国交回復共同宣言、通商協定書調印○小選挙区法案上程、審議未了○矢内原東大総長ら新教委、教科書法案に反対声明○新教育委員会法混乱の未通過○憲法調査会、国防会議発足○砂川測量強行、警官隊と地元側衝突○日比賠償、経済開発協定仮調印○売春禁止法成立○石橋内閣成立○国連加盟○三菱重工、全駐労、鉄鋼労連、国鉄スト○原子力委員会発足○共産党平和革命を強調。  
(米) ダレス瀬戸際政策を発表、エニウエトックで核実験。  
(ソ) 第六次五ヶ年計画、コムソフォルム解散。  
○ナセル、大統領となりスエズ運河国有化宣言、イスラエル、英仏軍エジプト攻撃。  
○ポーランド、ハンガリー事件。  
高橋長太郎「国民所得」、船田亨二「法思想史」、丸山真男「現代政治の思想と行動」、岸本・都留編「近代経済学批判講座」、岩波講座「現代思想」、河出「経済学説全集」、気賀隆三「社会的進歩の原理」、岸本英太郎「窮乏化法則と社会政策」、岡松、ソウエト工業生産の分析、穂積文雄「英国産業革命史の一断面」、長守善「経済政策の理論」、山岡・木原「封建社会の基本法則」、武藤光朗「経済倫理」。

1957年(昭和32年) 1958年(昭和33年)

「小泉信三選集」全五巻 文芸春秋新社

1957年(昭和32年)

慶應義塾評議員会議長となる。

十一月 創立百年記念式典。  
十一月 教職員一〇名が警職法に反  
対声明。

◇著書  
「朝の机」 新潮社  
◇監修  
「福沢諭吉全集」全二一巻の刊行始まる。

定、第四次日中貿易協定調印○参院水爆実験禁止決議○中小企業団体法成立○不況、総評全国で実力行使○ジラード裁判○ネルー首相来日○社会党訪中使節団、二つの中国を認めぬ声明○国鉄新潟闘争。

(一) 人工衛星打上げ成功、フルンチョフ首相となる。  
(二) ドゴール内閣成立。  
(三) エニエC、ユーラトム設立条約調印。  
(四) スエズ運河再開。  
有沢他「現代日本資本主義体系」、遠山・山崎・大井編「近代日本思想史」、新潮社「マルクス・エンゲルス選集」、伊東信吉「中小企業論」、小池基之「地主制の研究」、山崎功「イタリヤ社会運動史」、岡山直太郎「近世日本の人口構造」、杉原四郎「ミルトマルクス」、庄司吉之助「米騒動の研究」。

第二次岸内閣成立、安保改訂交渉始まる○長崎で中国国旗事件○売春禁止法施行○文部省、道徳教育を義務制に○総評、春季闘争○勤評反対運動、道徳教育講習会各地で警官と衝突○政府警職法を国会提出、抗議運動高まって審議未了○炭労、王子製紙など争議。

(一) 最高会議、核実験を一方的に停止決議。  
(二) アルジェリア事件。  
(三) ドゴール内閣成立。  
(四) 人工衛星打上げ。  
(五) フラプ連合共和国成立。  
(六) 金門島砲撃。  
水田洋他「イギリス革命」、講座近代思想史、古在・井汲・村田、長洲「現代マルクス主義」、三枝博音「西欧化日本の研究」、有沢、小椋、都留他「現代資本主義講座」、黒川俊雄「最低賃金制論」、木下・藤田・橋本「現代財政政策の理論」、石上良平「英国社会思想史研究」、林栄夫「戦後日本の租税構造」、安藤精一「近世在方商業の研究」、住谷悦治「日本経済学史」、ねづまさし「批判日本現代史」、武山泰雄「アメリカ資本主義の構造」。

1959年(昭和34年) (昭和35年)

文化勲章受ける。皇太子結婚。

一月 金原賢之助商学部部長死去。  
五月 三田南・西両校舎完成。  
六月 慶應義塾労働組合結成。  
九月 産業研究所開設。  
一〇月 小島栄次教授経済学部長に就任。

皇太子夫妻の随員として渡米。

六月 塾長改選(各学部毎に候補者と学部代表推薦人を選出し、推薦人が評議会代表と諮って決定)、高村象平教授塾長となる。  
六月 一日に安保問題で教員の集会、デモ行進行われる。  
六月 野村兼太郎教授死去。

◇著書  
「小泉信三集」(私たちはどう生きるか?) ポプラ社  
「小泉信三集」(現代知性全集II) 日本書房  
「この一年」 文芸春秋新社

◇著書  
「河流」 新潮社  
「新安保条約は旧条約に優る」(日本学術文化叢書別冊) 日本文化連合会事務局  
「日本人として」(自衛隊教養文庫第三) 学陽書房

田中徳五郎「吉野作造」、飯田鼎「イギリス労働運動の生成」、竹内良知「昭和思想史」、現代資本主義講座、近藤康男「日本農業の経済分析」。

東京地裁米軍駐留違憲判決○最賃法成立○浅沼訪中共同声明○社会党西尾派分離○参院、防衛二法強行成立○第三次岸内閣成立○北朝鮮帰還始まる○安保改定阻止国民会議結成、安保反対運動高まる○主婦と生活、三池、全織、炭労スト○皇太子結婚○右翼愛国者懇談会に結集○サイドワインダー持込み。  
○米ソ首脳会談、フルシチョフ国連で完全軍縮演説。  
(キ) キューバ革命。  
(中) 中印国境紛争。  
(独) 西独社民党右傾。

増田・小松・高村・矢口編「社会経済史大系」、筑摩「講座現代倫理」、松下圭一「市民政治理論の形成」、筑摩「近代日本思想史講座」、慶大経済学会「日本における経済学の百年」、桑原福「フランス革命の研究」、都留編「現代資本主義の再検討」、遊部久蔵「資本論研究史」、現代資本主義講座、宇野弘蔵「マルクス経済学原論の研究」、恐慌論講座、長洲一二「現代マルクス主義論」、古谷弘「現代経済学の基本問題」、増田四郎「西洋封建社会成立期の研究」、明治維新史研究講座。

羽田事件○三井三池スト、藤林あつせん案拒否○安保改訂調印、安保国会に対し空前の請願運動○会期延長抜き議論、新安保強行採決、連日国会、米大使館へ抗議デモ、学者文化人三千人国会行進○ハガチー事件○六・一五事件、樺美智子死○アイク訪日阻止○岸退陣○浅沼委員長刺殺○三井三池争議終結○勤評神奈川方式○池田低姿勢内閣、所得倍増政策を掲げ

(昭和37年)	1961年(昭和36年)	1960年
<p>◇著書 「人生論読本・小泉信三」 角川書店 「秩序ある進歩」 ダイヤモンド社</p>	<p>◇著書 「十日十話」 毎日新聞社 「小泉信三集」(現代知性全集11 愛蔵版) 日本書房 「福沢論吉の歴史観―「民情一新」と「旧藩情」―</p>	<p>○ U2機侵入事件、首脳会談決裂。 (イ) サハラで原爆実験。 (ロ) カストロ首相、米国資産を国有化。 (ハ) 田中徳五郎「北一輝」、講座社会保険、平井新「社会思想史研究」、高村象平「ドイツ・ハンザの研究」、増淵電夫「中国古代の社会と国家」、現代日本産業講座、「転向」、大川綱「日本経済の分析」、日本産業史体系、「論争・国際価値論」、島恭彦「現代の国家と財政の理論」、加藤寛「ソ連の経済成長と経済計画」、マルクス・エンゲルス全集、戸原四郎「ドイツ金融資本の成立過程」、現代反体制運動史。</p>
<p>○ 公明会結成○国産第一号大型研究用原子炉に原子の火ともる○新幹線テストで時速二〇〇キロの新記録○池田首相大学管理制度改革を言明、大学問題○人づくり懇談会生まれる○経済使節団訪ソ○石炭鉱業調査団石炭対策を答申○大学</p>	<p>○ 嶋中事件○衆院で政防法案強行可決○釜ヶ崎事件○仙台高裁で松川事件差し戻し公判、全員無罪判決○ソ連見本市開く○貿易自由化促進計画大綱決まる○東証株価大暴落○医師会、歯科医師会全国一斉休診○構造改革論争○ライシヤワ1着任○政暴法案提出○防衛二法、農基法成立○池田ケネディ会談○憲法調査会改憲審議○文部省学力テスト強行○三無事件○ミサイル基地反対運動○炭労スト、政策転換を要求○政暴法反対デモ。</p> <p>(米) キューバと断交、侵攻に失敗。 (アルジェリア) 自決国民投票、ドゴール支持。 (イスラエル) アイヒマン裁判。 (ソ) 人間衛星打上げ成功、新綱領草案発表。</p>	<p>○ 自治を守る会結成○日韓会談反対運動。 (米) 黒人入学拒否で学生軍隊と衝突。 (ソ) 中印国境紛争激化。 (ソ) キューバからミサイル撤去。</p>

1964年(昭和39年)	1963年(昭和38年)	1962年
<p>一月 貨金カットをめぐり当局と労組の対立激化、四度のストライキ。</p>	<p>四月 高村塾長、学生の政治活動を禁止して問題化。</p>	<p>私家版 新文明社</p>
<p>◇著書 「ペンと剣」 ダイヤモンド社</p>	<p>◇著書 「わが日常」 新潮社 「二つの岐路」 文芸春秋新社</p>	<p>の自治を守る会結成○日韓会談反対運動。 (米) 黒人入学拒否で学生軍隊と衝突。 (ソ) 中印国境紛争激化。 (ソ) キューバからミサイル撤去。</p>
<p>(イ) パナマ事件。 (ロ) 中国を承認。 (ハ) ソウルで学生デモ、戒厳令。 (インドネシア) スカルノ大統領、マレーシア紛争を命令。 (ヴェトナム) 米機北爆、トンキン湾事件、南で反政府暴動激化、流血デモ続き戒厳令、米軍将校宿舍爆破される。 (中) 核実験に成功。</p>	<p>○ スカルノ来日○日ソ貿易交渉妥結○IMF八条国移行承認○四・一七スト延期○OEC D加盟○日共、志賀・鈴木・神山・中野を除名○部分核停条約成立○新潟地震○新幹線営業開始○オリンピック東京大会○原子力潜水艦佐世保入港○公明党結成○米価など物価値上げ甚し○佐藤内閣成立○全学連早大構内で乱闘○日共四・一七スト問題で自己批判。</p> <p>(米) パナマ事件。 (ロ) 中国を承認。 (ハ) ソウルで学生デモ、戒厳令。 (インドネシア) スカルノ大統領、マレーシア紛争を命令。 (ヴェトナム) 米機北爆、トンキン湾事件、南で反政府暴動激化、流血デモ続き戒厳令、米軍将校宿舍爆破される。 (中) 核実験に成功。</p>	<p>○ 学術会議原子力潜水艦寄港反対を決議○生存者救済を復活○OEC D加盟承認○原水禁運動分裂○原潜反対運動活発化○最高裁松川事件上告棄却○原子力発電に成功○ILO理事会日本政府を批判○新産都市指定○物価値上り激化○三井三河鉱大爆発、鶴見事故。 (仏) ドゴール、英のE.E.C加盟拒否。 (英) プロヒューモ事件。 (米) 人種問題激化、ケネディ暗殺される。 (ソ) 中ソ論争をめぐりモスクワ会談、フルシチョフ失脚。 (ヴェトナム) 南ヴェトナムでクーデタ。</p>

KEIO ECONOMIC STUDIES

Volume III, 1965

CONTENTS

- Embodied Technical Progress and Economic Growth ..... *Fusaji Takahashi*  
 On William Godwin ..... *Atsushi Shirai*  
 Shifting of the Japanese Corporation Income Tax  
 and the Differential Tax Burdens on Corporations  
 by Size-Groups ..... *Seiji Furuta*  
 The Prospect of Soviet Economic Policy  
 ..... *Hiroshi Kato and Haruki Niwa*  
 Non-Marxists' View on Marxist Economics ..... *Yoshindo Chigusa*  
 Economic Planning in Japan Critically  
 Examined ..... *Konosuke Yamada*  
 Some Comments on "The Determination of  
 Distributive Shares in a Two-Sector Model" ..... *Kunio Kawamata*  
 Rejoin to Mr. Kawamata's Comments ..... *Shigeo Tomita*

THE KEIO ECONOMIC SOCIETY

Keio University

1966年(昭和41年)	1965年(昭和40年)
<p>五月十一日心筋梗塞症により死去。                      五月十四日青山葬儀所においてキリスト教式により葬儀。                      九月 サルトル、ポーワール来塾。知識人の役割と女性の地位について講演。</p>	<p>東京都より名誉都民の称号を贈られる。                      一月 学費値上げに反対して学生スト。                      二月 経済学部助教助手会結成。要旨書を発表。                      三月 高村塾長辞任。                      四月 永沢法学部長、塾長となる。                      一〇月 カリキュラム改定審議。</p>
<p>◇著書                      「小泉信三集」(現代人生論全集3) 雪華社                      「福沢諭吉」(岩波新書) 岩波書店                      「座談おぼえ書き」 文芸春秋社                      「国家の死亡」 フェイス社                      「私の文芸談」 新潮社                      「海軍主計大尉小泉信吉」 文芸春秋社                      「私の履歴書」 日本経済新聞社</p>	
<p>○中ソ論争激化。                      早大事件、大学紛争続く。専売公社選挙違反事件、田中彰治事件など、政界の腐敗事件続く。荒船、松野、上山事件。小選挙区制をめぐる動き活発となる。航空機の事故連続。日共自主路線をとる。三菱重工統合。日産・プリンス合同など企業合併続く。</p> <p>(中) 文化大革命。                      (印) ガンデー女史首相となる、食糧危機。                      (ウ) ウェトナム北爆激化、ホノルル会議。                      (イ) インドネシア、反共デモ続き、共産党非合法化。                      (英) ドゴール、NATOの改組を要求、脱退を宣言。                      労働党大勝。</p>	<p>期待される人間像発表。ILO調査団来日。慶大 学費値上げ反対スト。原潜寄港続く。三矢研究問題化。日韓基本条約仮調印。北炭夕張炭鉱でガス爆発。山陽特殊鋼など倒産。東証ダウ安値更新。東京都議会議長逮捕。ILO案件可決。吹原産業事件。海員組合スト。公労協半日スト。私鉄二四時間スト。佐々木更三社会党委員長に当選。山一証券へ日銀特別融資。山野炭鉱爆発事故。日韓条約調印。都議会選挙で社会党第一党。社会、公明小選挙区制反対で共闘確認。                      (韓) 南ウェトナムへ二千人派兵、ソウルに衛戍令発動、日韓条約批准案を与党単独で可決。                      (インドネシア) 国連脱退、クーデタ起る。                      (ソ) モスクワで世界共産党協議会、中国共産党不参加。                      (ウェトナム) アメリカ大使館爆発、米地上軍直接戦闘参加表明。</p>

(白井厚)